

令和 7 年度第61回新潟県小中学校教頭会研究大会
「新発田・北蒲原・胎内大会」

開 催 要 項

研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」
(キーワード 自立・協働・創造)
～夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり～
(3年次)

主 催 新潟県小中学校教頭会

後 援 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 聖籠町教育委員会
新発田市教育委員会 胎内市教育委員会
新潟県小学校長会 新潟県中学校長会
新発田市小学校長会 新発田市中学校長会
胎内市校長会
聖籠町校園長会

主 管 新発田市・北蒲原郡小中学校教頭会
胎内市小中学校教頭会

大会期日 令和 7 年 11 月 5 日 (水)

会 場 全体会／分科会：オンライン ※参加者は勤務校からの参加

ホスト会場 : 新発田市立本丸中学校
(新発田市緑町 2 - 7 - 22 TEL 0254-22-2525)

新発田市立御免町小学校
(新発田市大栄町 4 - 5 - 33 TEL 0254-22-2216)

日 程

13:30 14:00 14:25 14:40 16:20 16:30

受付	開会式 全体会	休憩 入室準備	分科会 提言発表、質疑応答、協議、報告、指導	アンケート
本丸中学校と御免町小学校をホスト会場として、全体会・分科会ともにオンラインで行う。				



挨拶

新潟県小中学校教頭会会長
浅山 景

第 61 回新潟県小中学校教頭会研究大会新発田・北蒲原・胎内大会の開催に際して、一言
ご挨拶申し上げます。

さて、本研究大会は、全国公立学校教頭会第 13 期統一研究主題「未来を切り拓く力を育
む 魅力ある学校づくり」（キーワード：自立・協働・創造）を受け、県独自のサブテーマ
「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（3 年次）を
掲げ、その達成に向けて、研究大会をこれまで開催してきました。

令和 6 年 12 月 25 日、中央教育審議会において、「初等中等教育における教育課程の基準
等の在り方について」文部大臣より諮問しました。諮問の背景の中で、「自らの人生を舵取
りしていくこと、多様な他者との対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創
り手」を育てることが重要である。」と示されています。これは当県のサブテーマに合致す
ることであり、我々の 3 年間の取組の方向性が正しかったと言えます。

さらに、「全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにしていくことが我が国の未来に
あって重要である。」とも示されています。子供が可能性を開花させるためには、学力だけ
でなく、非認知能力や探求心を育むことが大切とされています。例えば「教科横断的に問題
を発見・解決を行っていく学習」「他者との対話の中で自らの考えを伝え合い、考えを深め
る学習」「地域の人や企業と協働するキャリア教育」「失敗を許容する文化の醸成と安心でき
る人間関係作り」等が挙げられます。子供の可能性を伸ばす教育課程を実施するためには、
子供の可能性を伸ばす学校像の教員間の共有がベースとなります。また、自らの経験に頼る
だけでなく、国の動向や多様な考えを取り入れ、自らの教育観や教育技術を広め深めること
が、一人一人の教員に求められます。

このような教員集団を構築するためには、教育的ビジョンを描く力、学校運営を支えるマ
ネジメント力、教職員や保護者との信頼関係を築くコミュニケーション力、現場の課題を的
確に把握し改善する課題解決力、変化に対応する柔軟性と創造性、そして子供や教師の思い
に寄り添う人間理解と共感力等が、教頭には求められます。本研究大会が、会員一人一人の
教頭としての資質・能力を向上させる一助となることを願っています。

結びに、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会、
関係諸機関・諸団体よりご後援いただきましたことに、深く感謝申し上げます。また、各分
科会での指導者の皆様や運営に携わってくださっている皆様からご支援・ご協力をいただ
いておりますことにも重ねて感謝申し上げ、挨拶といたします。

第 61 回新潟県小中学校教頭会研究大会の目指すもの

新潟県小中学校教頭会研究部

1 第 61 回新潟県小中学校教頭会研究大会研究主題について

(1) 研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

(キーワード：自立・協働・創造) <第 13 期全国統一研究主題>

(2) 研究主題設定の意義

令和の新しい時代の幕開けと共に、人工知能の進化、高度情報化社会の到来と、生活の質的変化が急激に進んでいる。一方、少子高齢化、人口減少、子どもの貧困問題等の社会的課題に加え、教職員の多忙化や未配置問題、教員志望率の低下等、教育を取り巻く環境や学校現場には難しい課題が山積している。

こうした社会状況において、豊かな人生を生きるために子どもたちに求められることは、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新しいものを生み出し、課題の解決や改善に粘り強く取り組んでいく力を付けていくことであり、教育の果たす役割は重大である。そして、教育の現場にいる私たちは、日本国憲法や教育基本法の理念に基づき、子どもたち一人一人に、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を実現していくことが大きな使命である。

私たちは、このような背景を踏まえ、「社会や地域に開かれた教育課程」を展開し、時代の進展・変化に的確に対応する「生きる力」とともに、困難な中でもよりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていく「未来を切り拓く力」を子どもたちに育み、たくましく生きていく人間の育成に貢献しなければならない。

併せて、昨今、教職員の人材確保が大きな課題となっていることから、未来を担う子どもたちを育てる仕事の責務と魅力が十分に感じられ、子どもたちにとっても、教職員にとっても「魅力ある学校づくり」を具現化していく必要がある。

2024 年度は、全国公立学校教頭会（全公教）の第 13 期統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」のもと、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定して、第 60 回新潟県小中学校教頭会研究大会・第 15 回ブロック別研究大会をオンライン形式で開催し、第 2 年次の研究を進めてきた。そして、これまで諸先輩方が築き上げてきた「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」の更なる充実を目指し、会員の参加意識を高め、研究の成果や課題が会員一人一人に共有され、課題解決に寄与できるように努めてきた。

2025 年度は、全国公立学校教頭会（全公教）の第 13 期統一研究主題を受けた研究の第 3 年次となる。サブテーマも 2 年次と同様に設定し、先に述べた「研究の継続性」と「協働性」、「教頭の関与性」を明らかにした教育実践を持ち寄り、その実践の有効性や妥当性などを検証するとともに、互いの実践や意見交換から学ぶことを通して、会員一人一人が学校運営の力量を高め、新潟県教育の発展に貢献することを目指す。

2 サブテーマについて

(1) サブテーマ

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（3年次研究）

(2) サブテーマ設定の趣旨

第3期教育振興基本計画の「Ⅲ．2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項」では、個人の目指すべき姿として、「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成」が掲げられている。主体的に学ぼう、主体的に社会と関わろうとする意欲の源は、「こうなりたい」「こうしたい」という夢や希望である。また、直面する問題を解決するためには、多様な人々と関わり協働していく力や、困難に対し粘り強く取り組み、自ら乗り越えていく力が必要である。

第13期の研究では、自立・協働・創造の三つの方向性を継承し、子どもたち一人一人が自分の未来に対して主体性をもち、実現に向けて協働的に取り組む力を育む学校づくりに焦点を当てて教育実践を重ねていく。その中核となる教頭の在り方を追究するため、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定した。

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子ども」とは、次のような資質や能力を備えた子どもである。

- ①多様な個性・能力を伸ばし、自ら可能性に挑戦することができる子ども
⇒ 「自立」 する子ども
- ②個人や社会の多様性を尊重し、共に支え合い、高め合うことができる子ども
⇒ 「協働」 する子ども
- ③自立・協働を通じて新たな価値を創造していくことのできる子ども
⇒ 「創造」 する子ども

これからの激動の社会を生き抜く子どもたちには、自ら考え、学校内外の多様な人々と協働しながら主体的に課題を解決し、新たな価値を創造する力が求められている。このような力を育むために、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、学校・家庭・地域の連携をさらに深め、協働型・双方向型の学びを進めていくことが必要である。

また、学校内外の様々な知恵・資源を積極的に取り入れていくことにより、学校を子どもの教育の場であると同時に、多様な人が集まり協働し創造する学びの拠点として深化させていくことが期待されている。

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子ども」を育むためには、副校長・教頭が中核となり、学校運営を充実させていくことが重要となってくる。新潟県小中学校教頭会は、組織的・協働的に、教頭の在り方を鋭角的にかつ多面的に追究し、新潟県の教育の振興に寄与していく。

(3) 研究課題と実践の視点

サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」の追究のために、5つの課題を設定した。私たちの研究は、新潟県・新潟市の課題をしっかり受け止めるとともに、自校の抱えている課題を把握し、その解決を図ることが目的である。課題を解明する実践においては、教頭の職務内容に焦点付けた視点が必要である。そこで、全公教の内容例・視点例を参考にして、5つの課題と新潟県小中学校教頭会としての実践の視点を設定した。

(実践の視点はあくまでも例示であり、各単位教頭会において追究していく内容を絞り込んで実の上がる研究を推進する。)

【第1 課題；教育課程に関する課題】

- 信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関することと（カリキュラム・マネジメント）
- 教育目標の設定と具現化に関すること
- 教科横断的な視点に立った資質・能力に関すること
- 教育課程の実施と学習評価に関すること（GIGA スクール構想の推進等）
- 幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること
- 小中一貫教育に関すること
- 家庭や地域との連携及び協働に関すること

【第2 課題；子どもの発達に関する課題】

- 確かな学力の確実な定着に関わること
- 児童生徒の豊かな人間性の育成に関わること
- 児童生徒の健康・体力の増進に関わること
- 生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成に関わること
- その他、児童生徒の発達を支える教育課題に関わること

【第3 課題；教育環境整備に関する課題】

- 児童生徒の安全安心に関すること
- 学校の施設設備に関すること
- 学校、家庭、地域との連携と協働に関すること
- 学校規模適正化に関すること
- 文書事務、経理事務の管理に関すること
- 教育の情報化に関すること（ICT 環境の整備と活用の在り方等）

【第4 課題；組織・運営に関する課題】

- 学校運営全般に関すること
- 人材育成や組織力向上に関すること
- リスク管理や危機管理に関すること
- 地域連携（コミュニティ・スクール等）に関すること

- 異校種連携に関すること
- その他、組織・運営に関すること

【第5課題：教職員の専門性に関する課題】

- 教職員の専門家としての意識高揚に関すること
- 教職員の指導力等の育成に関すること
- 教職員の研修に関すること
- 教職員の服務に関すること
- 学校段階間連携を通した、教職員の課題意識の向上に関すること
- 教職員の協働体制の構築に関すること
- 教職員の学校運営参画意識の向上に関すること

3 研究の基本方針

全国公立学校教頭会の研究の基本方針を踏まえ、新潟県小中学校教頭会として次の3点に焦点を当てた実践的研究を進める。＜3つの**C**>

- (1)客観的で継続性のある研究を進める……………**continuity**
- (2)組織的で協働性のある研究を進める……………**collaboration**
- (3)教頭としての関与性を明確にした研究を推進する……………**commitment**

今年度も、郡市教頭会ごとに研究の協働性を高めるとともに、①研究テーマは何か ②研究テーマに正対する結論は何か ③結論を支える具体的な事実は何かの整合性を高めた論述をし、会員一人一人に研究の成果が共有されるように配慮していく。

研究大会の効果を評価する4つのレベルというものがある。（出典：アメリカの経営学者カークパトリック博士が1959年に提案した教育の評価法のモデルより）

- | | |
|-------|-----------------------------|
| ○レベル1 | 研究大会に参加したことに満足する |
| ○レベル2 | 学んだことで新たな知識や技能を習得する |
| ○レベル3 | 実際の教育現場での行動変容、向上的な行動変容が見られる |
| ○レベル4 | 学校組織全体の業績や成果が上がる |

今回の研究大会は、3年ぶりの全県研究大会である。会員一人一人の学びのレベルは違ってくるであろうが、大会要項の精読・協議の柱の確認などを行い「研究成果を会員一人一人の勤務校や郡市に持ち帰ること」と「本研究大会の成果と課題を明確にすること」を目指していく。

〔ミーティング ID 及びパスコード〕 ● 受付時間内（13時30分～）に各分科会のミーティングに参加する。

研究課題	分科会名	種別	担当教頭会	ミーティングID	パスコード
開会式・全体会				938 3858 6798	206222
1 教育課題に関する研究	第1 A	小	新潟市（小）		
	第1 B	中	上越市・妙高市	948 8385 2488	510889
2 子どもの発達に関する課題	第2 A	小	佐渡市（小）	930 3044 1169	012466
	第2 B	中	柏崎市刈羽郡	995 1404 4966	042695
3 教育環境整備に関する課題	第3 (3)	合同	長岡市・三島郡	932 3739 4580	208245
4 組織・運営に関する課題	第4 A	小	見附市	978 1161 0429	697750
5 教職員の専門性に関する課題	第5 A	小	南魚沼郡市	922 9341 1722	592824
	第5 B	中	新潟市（中）	937 2197 7502	813694

Zoom ミーティングの名前は「小グループ番号(1～12)+学校名+氏名」とする。

例) **2七葉中山田絵美子**  スペースは入れず、詰めて入力してください。

なお、「提言者・支援者・司会者・記録者」の方は役割を名前のあとに入れる。

参加後、マイクはOFF、ビデオONにして接続を維持しておく。

研修会でのZoomの操作について

- ・小グループによるグループ討議は、各分科会の「ブレイクアウトルーム」にて行います。

例) 小グループ番号1(～12)→「ルーム1(～12)」に参加してください。

- ◇ 開会式 14時00分～14時15分 ※ 開会式・全体会用(1 A分科会)のミーティングに入室。
- ◇ 分科会 14時15分～16時20分 ※ 1 B～5 Bはそれぞれの分科会のミーティングに入室し直す。

- ① 分科会ごとに提言発表を聞く。

★ 提言発表と質疑応答後、

小グループのブレイクアウトルーム（ルーム1～12）に各自で移動 14時50分～15時05分

※小グループに移動できない場合、会場設営係（機器操作）が移動させます。

- ② 小グループでの協議

★ 小グループでの協議終了後、

もとの分科会全体のミーティングルームに各自で移動 15時45分までに

※分科会のミーティングルームに移動できない場合、会場設営係（機器操作）が移動させます。

- ③ 小グループでの協議の内容を発表（3つのグループを指定、要項名簿参照）

★ その他のグループ記録者は、グループ協議概要（形式自由）をデータで

新発田市立七葉小中村教頭へメール送信する。

【締切：11/12（水） アドレス：kyoto@nanaha-e.shibata.ed.jp】

- ④ 分科会指導者からのご指導

- ◇ 閉会式 16時20分～16時30分 ※ 分科会ごとで閉会式を行います。

【アンケート】

閉会式終了後、右記二次元コードまたは
下記URLよりアンケートの入力をお願いします。



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeOgnxlhsZ3Z4piHlIkU04qDYEXJkO661hpLEgO9dZo7Ltusg/viewform>

R7 分科会一覧

研究課題		分科 会名	種別	担当教頭会					
					提言者	支援者	司会者	記録者	指導者
1	教育課程に 関する課題	1A	小	新潟市 (小)	塚本 弓子 (竹尾小)	福田 愛日 東山の下小	佐藤 恵美 有明台小	近藤 辰雄 桃山小	田中 一史 様 下越教育事務所
		1B	中	上越市 妙高市	平野 彰子 八千浦中	工藤 寛之 頸城中	竹内 淳 安塚小	山岸 英昭 黒田小	田邊 和史 様 新発田市教育委員会
2	子どもの発達に 関する課題	2A	小	佐渡市 (小)	松田 健太 小木小	猪股 快門 行谷小	藤井 憲之 八幡小	貝瀬健太郎 相川小	阿部 英幸 様 新発田市教育委員会
		2B	中	柏崎市 刈羽郡	木本 高志 第五中	前川 牧人 鯖石小	小會納 司 枇杷島小	室 稔 北条中	鈴木 淳 様 下越教育事務所
3	教育環境整備に 関する課題	33)	合	長岡市 三島郡	丸山慎之輔 宮内小	黒岩 昭伸 上組小	渡辺 元子 宮内中	牧 周民 岡南中	阿部 香 様 聖籠町教育委員会
4	組織・運営に 関する課題	4A	小	見附市	川上 節夫 見附小	金子 剛志 葛巻小	外山 高宏 田井小	児玉 秀児 新潟小	池田 裕之 様 胎内市教育委員会
5	教職員の専門性に 関する課題	5A	小	南魚沼郡市	五十嵐啓滋 おおまき小	桑原 洋文 城内小	小野塚眞郎 北辰小	神崎 悟 八海中	白澤 道夫 様 下越教育事務所
		5B	中	新潟市 (中)	石原 直樹 宮浦中	山田 繁 坂井輪中	柳 大輔 内野中 希望が丘分校	畠山 淳 西川中	新井 達夫 様 阿賀野市教育委員会

MEMO



教育目標を具現化するための教頭の取組

～「働きやすさ」「働きがい」のある職場を目指して～

新潟市小学校教頭会 新潟市立竹尾小学校 塚本弓子

1 課 題

第4期教育振興基本計画にもあるように、子どもたちにとって「ひと」は最大の環境である。当然、子どもたちのすぐ側に位置する私たち教職員は、子どもたちにとって「よい環境」であることが望まれる。私の考える教職員の「よい環境」とは、常に私たち自身の心にゆとりや活力があり、教育目標の達成のために、組織的に取り組める状況にあるということである。

教師のウェルビーイング、学校・地域・社会のウェルビーイング

日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。



（第4期教育振興基本計画リーフレットより）

しかし、赴任した当初（令和6年度）は放課後の時間が少なく、生徒指導事案や支援を要する児童への対応の相談に時間が必要でも、すでに別の会議や予定が入っておりなかなか集まらない、または集まるタイミングが遅くなってしまうなど組織的に動くための時間が足りないと感じることが多くあった。また、教育活動の根幹である授業改善への取組が停滞気味だったり、学校行事や児童会活動などにおいて、活動の計画段階から、前年踏襲に陥りやすくなっている状況が見られたりしており、職員が生き生きと仕事に取り組み、活躍できる場が少ないと感じることもあった。

そこで、教職員が子どもたちにとって「よい環境」であるためには、教職員の心にゆとりや活力を生み出し、組織的に動ける「働きやすい」「働きがい」のある職場にする必要があると考えるに至った。

＜仮説＞働きやすく、働きがいのある職場であれば、より効果的に、教育目標の具現を図ることができる。

令和7年度は、これらのことを踏まえ、教頭として「働きやすさ」「働きがい」のある職場にするためにどのような手立てを講じればよいのかについて考え、取り組んだことを以下で述べることにする。

2 課題解決の取組

（1）働きやすい職場を作るための取組～時間の確保～

職員間で、素早く情報を共有し、チーム対応を徹底するためには、その時間を確保することが大切である。そのために、次の2つの取組を行った。

①校時表の工夫

チームで動くための時間を確保するため、校時表と余剰時数の見直し、毎週木曜日を5限授業とした。

（週当たり時数：1年24h、2年25h、3年26h、4～6年27h 委員会・クラブは除く）放課後の時間が増えることから、外部との連携（学校運営協議会、ひまわりクラブ）との調整を行った。

②時差勤務の活用

職員一人一人が勤務時間をやりくりして生活スタイルに合わせたタイムマネジメントを行いやすいように、時差勤務の活用を促進している。一見マイナスなイメージがあるが、予定を見て、互いに声をかけるなど補い合う動きがみられるようになった。

(2) 働きがいのある職場をつくるための取組～ペア学年の活用～

自分の強みを発揮し、チャレンジする意欲や創造するエネルギーを生み出す場があれば、働きがいを感じることができる。そのための土台を形成するために、「ペア学年」の仕組みを活用する。

① ゆるやかな教科担任制

学年内だけでなく、ペア学年同士での授業交換を行う。当校は、各学年2クラスしかないが、ペア学年内でも授業交換をすることで、各自が得意とする教科で授業を行う機会が増える。さらに、教科の特性や単元の系統性を考え、指導内容を分析する力が育まれ、日々の授業づくりにやりがいを見出している姿が見られた。また、職員研修もペア学年を中心に行っている。

② 児童理解

様々なタイプの子どもたちがいる中で、固定されないフレキシブルな関係性を生かし、各々が得意とするアプローチで子どもたちに働きかける場面が増える。このことで、生徒指導面でも強みを発揮し、多面的な児童理解が進む。問題を抱え込まない雰囲気が一層高まる。

③ 職員室の配置

学習活動の中で、ペア学年を活用した意図的な交流を図りやすいように、ペア学年同士が向かい合う配置とした。その結果、新しいアイディアが出されるようになっている。

＜例＞・2年生の掛け算の学習に合わせて5年生がかけ算ゲームなどを一緒に行い定着を図る
・3, 4年生で絵画作品展時に感想交流を行う
・6年生が外国語で学習した物語を英語劇にして1年生に見せる

3 成果と今後の課題

【成果】 <働きやすさ・働きがいの指標から（教員評価）>

評価項目		とても 思う	まあそう 思う
自分は、チーム竹尾の一員として、自分の力を発揮できている。	令和6年度	25%	64%
	令和7年度	28%	69%
自分は、日々の業務において自分の持ち味を生かしていると思う。	令和6年度	25%	68%
	令和7年度	30%	68%

- ・木曜日6時間目カットは、子どもも職員も気持ち的にもゆとりがあってよい。
- ・木曜日が5時間なので、放課後に入れ替えをしている先生方と打合せがしやすい。
- ・気になる子どもについて話題にあげやすい。

<教育ビジョン達成の観点から（児童評価・職員評価）>

(児童評価)	聴き合う力	①よく聴いている	57.0%	(令和6年度	52.7%)
	自治力	①よくしている	59.3%	(令和6年度	59.8%)
	受けとめる力	①よくしている	64.4%	(令和6年度	63.5%)

- ・友達の良さを見つけたり認めたりできる児童が多くなった。
- ・多様性を受け入れることはできるようになっている。
- ・運動会など行事でペア学年のつながりの仲間づくりの取組で成果を感じている。

【課題】 実務経験年数や専門教科の特性など、一人一人に個性にあわせた、「働きがい」を生み出すための働きかけに課題が残った。

○ 協議してほしいこと

- ・教職員の「働きやすさ」「働きがい」につながる職場づくりのために、どのような取組をすればよいのか。
- ・教育目標を具現化するためにどのような取組をしているのか。

総合的な学習の時間を中核にした

アントレプレナーシップ教育の推進

～特色ある学校づくりを目指して～



上越市教頭会 上越市立八千浦中学校 平野 彰子

1 課 題

当校は、平成25年から小中一貫教育を推進し、八千浦学園（八千浦小・中）として教育活動を展開している。学園目標である「志高く 地域を愛し 自らの夢に向かって 主体的に学ぶ 心身ともにたくましい 子ども」の育成を受け、当校では「自分の良さ、仲間の良さ、ふるさとの良さを知り、自信と誇りをもって夢に向かう生徒～『自己有用感』と『八千浦愛』～」の育成を目指し、地域と連携しながら教育活動を進めている。中でも、総合的な学習の時間のテーマを「地域の魅力発見」とし、上越市について調べたり、訪問したりしながら地域学習を行ってきた。しかし、自ら課題を見つけ、主体的に学び、課題を解決する資質・能力の育成には不十分であった。

そこで、総合的な学習の時間をアントレプレナーシップ教育の視点で見直し、地域の課題について地元の企業や行政と協働しながら探究活動を行うことで、失敗をおそれず、主体性をもって課題に挑む能力を育成し、自己有用感や郷土愛を育みたいと考えた。

2 課題解決の取組

(1) 八千浦学園の取組

八千浦学園では、八千浦学園会議を年3回設定し、小・中学校職員が各部会に分かれ、学園の活動や行事の企画・運営等を行っている。「八千浦学園 生活・総合部会」では、「志」を育むキャリア教育を推進するための「キャリア教育取組プラン」を作成している。「志」を育む5つの視点「郷土愛（あい）」「かかわる力（ひと）」「みつめる力（じぶん）」「やり抜く力（いきる）」「夢おこす力（みらい）」をもとに、総合的な学習の時間に育成したい資質・能力について全職員で共通理解を図った。

(2) 総合的な学習の時間の取組

新潟県教育委員会では、アントレプレナーシップ教育を「様々な社会変化の中で、主体性をもって課題に挑む人材を育成する教育」と定義している。そこで、令和7年度のアントレプレナーシップ教育推進校モデル事業に応募することで、総合的な学習の時間のカリキュラムや実践内容を見直した。

実践テーマを「地域に根ざしたアントレプレナーシップ教育の推進～地域課題の解決に向けた地元企業との協働～」とし、全学年で「地域の魅力発信・活性化プロジェクト」に取り組むこととした。これは、昨年度の第1学年が、総合的な学習の時間に行った地元企業と協働した取組（上越市地方創生推進事業を受けた上越市コンテンツ制作事業「上越市の魅力を発信するアプリコンテンツ制作事業」）をもとにしている。

① 第1学年の取組

昨年度の活動を継続し、上越市のよさや課題について学び、上越市の課題の一つである観光産業の充実・発展を目指した観光音声アプリ「Your Travel Agent」の音声ガイド作成に携わることで、ふるさと上越への理解を深める。自分たちで紹介したいスポットを調査し、調査内容を録音し、アプリに掲載する。

② 第2学年の取組

昨年度の観光音声アプリの取組を多くの人に知ってもらいたいとの願いから、アプリを紹介するチラシを作成し、様々な場面で配布したいと考えている。修学旅行先では、大学との観光交流を計画している。



Your Travel Agent

③ 第3学年の取組

地域の合同避難訓練で高齢者や園児の避難誘導を行った際、中学校の施設がユニバーサルデザイン化されていないことに疑問をもち、上越市内のユニバーサルデザイン化はどうなっているか調べたいという考えをもった。そこで、様々な施設の調査活動を行い、「安心して利用できる施設」として観光音声アプリに登録する。今後、学習内容を発表できるよう地元企業の方々と準備を進めている。

(3) 活動を充実させるためのマネジメント

- ① 地域や企業との橋渡し役となり、活動に必要な人的・物的資源を確保する。
- ② アントレ教育推進委員会（校内）を立ち上げ、アントレプレナーシップ教育の理念や育成したい資質・能力等についての説明を行うことで、職員の理解を図る。
- ③ 職員の相談役となり、各学年の活動計画や活動内容等の作成について支援する。また、校内の調整役となり、職員間の連携を図りながら、アントレ教育推進委員会を運営する。
- ④ 予算計画の作成や予算の執行等、活動に必要な資金繰りを行い、生徒や職員の希望に沿った活動が展開できるよう支援する。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① アントレプレナーシップ教育に必要な視点である「実社会（地域）とつながること」「社会に新たな価値を提供すること」を意識して実践を行うことができた。実社会の課題に挑戦することで多面的な視点で物事を考え、社会の役に立ちたいという意識が醸成されつつある。
- ② 全職員が連携を密にして、総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画を作成し、活動実践することができた。また、教職員が互いに知恵を出し合ったり、実践上の悩みや課題について気軽に相談し合ったりできる環境を整えることができた。
- ③ 生徒の実態や地域の教育資源・環境について把握した上で、教育課程の実施に必要な、人材や予算、時間、情報といった人的・物的資源を確保し、活動の内容と効果的に組み合わせることができた。

(2) 課題

- ① アントレプレナーシップ教育に必要な視点である「自ら課題を見つけること」「失敗体験から学ぶこと」については、まだまだ不十分である。生徒が自ら課題を設定し、失敗や対立、うまくいかなかった経験を次につなげるための手立てを講じていなくてはならない。アンケート等を活用し、どのような成果があったのか、どう改善が必要なのかを洗い出し、来年度に向けて具体的な方策を検討する。
- ② 教育活動の質の向上を図るために、教育課程の編成を含めたカリキュラム・マネジメントに関わる取組や評価等を充実させる。

○ 協議してほしいこと

- ・ 特色ある学校づくりのためのコーディネーターや組織マネジメント、体制づくりについて
- ・ 総合的な学習の時間における「自ら課題を見つけること」「失敗体験から学ぶこと」についての実践例



学校・家庭・地域・行政の連携で子どもを育む体制づくり

～少子化・学校規模縮小に対応した取組をとおして～

佐渡市小学校教頭会 佐渡市立小木小学校 松田健太

1 課 題

佐渡市立小木小学校は、佐渡市南西部の小木半島に位置し、歴史ある港町と自然豊かな地域を校区とする小規模校である。学校では、地域の人材や教育機関と連携し、子ども同士が関わり合い、互いのよさを認め合える教育を目指してきた。近年は少子化の影響により、3年間で95名から64名へと大幅に児童数を減らしている。児童数の減少により、教育活動の選択肢が狭まり、社会性を育む場の確保や人材の配置において以下のような課題が生じている。

(1) 児童の社会性を育む機会の減少

児童の約3分の2がバス通学をしており、放課後に友達と遊ぶ機会が少ない。これまで学校が社会性を育む大切な場であったが、児童数の減少により集団での活動や話し合いの機会が限られ、社会性を伸ばす場の確保が難しくなっている。そのため、多様な考え方や価値観に触れられる場を、意図的に設定することが求められている。

(2) 児童に提供する選択肢の最適化

職員数の減少により、従来行われていた規模での活動が困難になった。一人の教員が複数の役割を担うことから負担が大きくなり、児童に多様な選択肢を提供しにくくなった。また、3年間という短期間での異動が多いため、十分な引継が行われず、前年度踏襲といった傾向に陥りやすい。学校規模に応じた教育活動の最適化が必要となっている。

2 課題解決の取組

課題解決に向けて、学校・家庭・地域・行政が連携する体制づくりを進めた。教頭として、関係機関との調整や地域資源の掘り起こし、保護者との対話を通して、継続可能な仕組みを構築することに努めた。具体的には以下の3点である。

(1) 地域資源を生かした教育課程の整備

本校では、生活科や総合的な学習の時間において、地域資源を活用した教育課程を展開してきた。しかし、感染症の流行や教職員の異動により、当初の目的意識が薄れ、体験中心となったり、他教科とのつながりが希薄になったりするなどの課題が見られた。加えて、学年間で内容が重複し、系統的な学習が成立しにくい状況もあった。

これを受け、研究主任と協力して教育計画の見直しに取り組んだ。各学年の活動をマインドマップで整理し、単元相互のつながりや他教科との関連性を可視化した。その上で、①学習目標と活動の整合性、②他教科の資質・能力との関連、③学年間の重複の有無、④地域人材との調整のしやすさ、という四つの視点から改善を進めた。

見直しを進める中で、教職員が目的意識を持って授業づくりに関わるようになり、課題も具体的に見えるようになった。また、地域の協力者にアンケートを実施し、事前準備や当日の運営に関する意見、次年度の協力可否などを確認した。その結果、継続的な支援を申し出る声が多く寄せられ、運営面への建設的な意見も得られた。令和7年度は、地域コーディネーターやコミュニティ・スクールディレクターが中心となって「地域人材リスト」を整備し、教育課程と連動した支援体制の構築を進めている。学校と地域が協働しながら、より質の高い教育活動の実現を目指している。

(2) PTA 活動を中核とした支援体制の整備

児童数の減少は PTA 会員数と予算の縮小を招き、学校と家庭の連携や支援体制の維持が課題となっていた。教頭は、こうした状況を本部役員と共有し、対話を重ねながら、組織再編と会則の見直しを進めた。そして、新たな取組として始まったのが「小木っ子応援ボランティア」である。これは、学校職員だけでは十分な運営が難しい活動に地域の協力を得る仕組みであり、教頭が案内文を作成し、保護者や地域コーディネーター、公民館等へ依頼を行っている。その内容は、校外学習の引率補助や家庭科の裁縫実習など、多岐にわたる。また、文化祭の食品バザーでは、児童の社会性を育むことを目的に 6 年生が売り子役を担う形に改めた。児童の主體的な関わりにより活気ある行事となり、PTA の負担軽減にもつながった。こうした活動を通じて、学校・家庭・地域が一体となって児童を育む体制の強化を図っている。



(3) 外部機関との連携による教育活動の推進

児童数の減少により学校単独での行事運営が困難になる中、教育活動の継続・充実を図るためには外部機関との連携が欠かせない。本校では、地域に縁のある人材や団体の協力を得ながら、小木行政サービスセンター（以下、小木行政 SC）や小木地区公民館を通じて活動の共催や調整を行っている。その一例が、令和 5 年度から実施している「小木小運動会と地区運動会の共催」である。以前は、学校が 5 月、地域が 9 月にそれぞれ運動会を行っていたが、少子化や高齢化、感染症の影響で地域運動会は数年間開催できない状況が続いていた。そこで、行政・学校・PTA が協議を重ね、合同開催に変更した。教頭は学校側の主担当として、実行委員会に複数回出席し、企画や運営の調整に関与した。この取組により、参加者が増えたことや、児童と地域が一体感をもって関わったことなどが保護者アンケートでも高く評価された。また、行政 SC 職員と学校職員の関係も深まり、日常的な教育活動においても連携が進んでいる。

現在、地域の様々な団体と連携して行っている活動は、小木港祭り、野菜栽培体験、伝統芸能指導、観光学習など多岐にわたる。いずれも、学校単独では実施困難なものであり、行政との関係を基盤とした連携は、今後ますます重要になると考えられる。教頭としては、これらの活動が円滑に行えるよう関係機関との調整を担い、児童の豊かな学びを支えている。

3 成果と今後の課題

本実践では、学校・家庭・地域・行政の連携によって、少子化・小規模化に対応した体制づくりを進めてきた。児童の社会性に関する学校評価アンケートでは、「自分の考えを話したり書いたりできる」が 85% から 88% に向上し、「相手の気持ちを考えた言動ができる」は保護者評価で 76% から 82% へと改善された。実際、総合的な学習の時間に地域人材と関わった児童からは、「地域の人にもっと話を聞きたい」「また一緒に活動したい」といった声が多く聞かれ、自らかかわろうとする意識が高まっていることがうかがえた。また、「小木や佐渡のよさがわかるか」という設問では、児童の 98% が肯定的に回答し、地域とのつながりが郷土への愛着形成にもつながっている。一方、関係機関との連携調整や職員の異動による継続性確保には課題がある。令和 7 年度より発足した学校運営協議会の意見も取り入れ、柔軟で持続可能な体制の構築を図っていく。

① 自分の考えが分かるように話したり書いたりする	
年度	児童
令和 5	85%
令和 6	88% (+3)

② 相手の気持ちを考えた言動をしている		
年度	児童	保護者
令和 5	91%	76%
令和 6	91% (±0)	82% (+6)

○ 協議してほしいこと

- ・小規模校における地域連携体制をどのように構築・維持していくか。
- ・職員の異動を前提とした継続可能な仕組みとは何か。

多様な子どもの居場所がある学校づくり

～「いま・ここ」の子どもの学びと成長のために～



柏崎市・刈羽郡小中教頭会 柏崎市立第五中学校 木本 高志

1 課 題

当校は、全校生徒20名の小規模校である。豊かな田園地帯に立地し、地域との繋がりが深く、子どもを地域全体で見守り、育てる温かな風土がある。PTA活動においても保護者の参加率が高く、様々な行事に関わり、学校の教育活動を支えていただいている。こうした環境を求め、他校で馴染めなかった子や、不登校経験がある等、様々な事情を抱えた子どもや保護者が当校を選び、各学年に在籍している。「不登校は必ずしも問題行動ではない」という共通理解のもと、小規模校のよさを生かしながら、すべての子に寄り添い、多様な子どもの居場所がある学校づくりに全職員で取り組んでいる。

しかし、小規模校に通うことだけで、このような課題が直ちに解消されるわけではない。むしろ、小規模校ならではの課題もある。ある学年では、教室登校が一人の日もあり、予定していた学習や活動が計画通りに進まないことがある。そのため、学力差が大きくなり、個別指導が余儀なくされる状況も多い。また、小規模校で行事等を行うためには、一人一人が何らかの役割を担う必要があるため、個々の存在が際立つことも多い。そのため、人との関わりに苦手意識をもつ子どもが多く在籍する当校においては、ただ行事等を行おうとすると、子どもの不安やストレスの要因になってしまうことが懸念される。

さらに、当校は次年度をもって閉校し、全校が300名近い学校との統合を控えている。現在の生徒は人との関わりが苦手だったり、大集団での活動経験が不足していたりする子が多い。小規模校としてのよさを生かしつつも、統合先での子どものよりよい姿を見据えた支援の在り方が求められる。教頭として「学校内外で何ができるのか」という問いを立て、まずは「多様な子どもの居場所づくり」に取り組み、段階的に統合を意識した支援を進めることにした。これにより、「いま・ここ」の子どものよりよい学びと成長する姿を目指していく。

2 課題解決の取組

課題解決に向けた取組について、「『多様な参加の仕方』の保障」「『子どもの自己決定』の余地」「組織的対応」の3点を視点とした。いずれの取組においても、子どもの実態を十分に踏まえ、子どもや保護者と全職員でロードマップを描きながら進めた。

(1) 「多様な参加の仕方」が保障された環境整備

① オンライン授業の体制整備

一人一台端末の整備に加え、どの教科でもオンライン授業を行えるよう、市教育委員会に依頼し、必要数の端末やアカウントを申請し、確保した。子どもや保護者には、オンライン授業の趣旨や出欠席の扱い、評価の仕方等について周知した。そのうえで、各教室での端末準備等は、授業者に加え登校した子どもも担い、受け入れ側の理解を得るようにした。また、学校行事等についても可能な限りオンラインによる参加ができるようにした。

② 教室へつなぐ校内支援センター（ＳＳＲ）の設置

校内にＳＳＲを設置し、教室以外の居場所を確保した。これは、教室から一時的に離れたい場合や、クールダウンするためだけではなく、自宅でオンライン授業を受けていた子どもが校内でも学習を継続できるようにした。教頭や養護教諭、教育支援員、スクールカウンセラー（ＳＣ）のほか、空き時間のある職員が交互にＳＳＲにいるようにした。

(2) 「子どもの自己決定」の余地がある学校生活づくり

① 子どもが決める授業等への参加の仕方の保障

上記のオンライン授業やＳＳＲの利用も含め、様々な活動において子ども自身の意思を尊重できるようにした。教頭や道徳主任、生活指導主任等が中心となって全校道徳を行い、子どもが互いの多様性を認め、尊重し合えるように指導している。校則や行事等についても、生徒会を中心に子どもの考えを取り入れるよう職員で共通理解を図り取り組んでいる。

② 複線型の学びがある授業改善

子どもの実態や学校規模に関わらず、自分に合った学びを見出せるようにするために、「複線型の学び」を単元の中で設定するようにした。校内研究推進部に教頭が所属し、市主催のセミナー等で得た情報を共有することで授業改善を推進した。子どもは、学習を「自分で」「仲間と」「授業者と」等、選ぶことができるようにした。授業後はリフレクションの時間を確保し、子どもが自分にあった学び方を振り返ることで、学びの自律化を図った。

(3) 「組織的対応」による系統的な支援体制の確立

① 共通理解と役割分担による「チーム学校」づくり

定期的に子どもへのアセスメントを行い、生徒指導部会等で共通理解を図る場を設けている。また、職員がより子どもと向き合うことに注力できるよう、要配慮の保護者対応については教頭が窓口となり、面談等に積極的に加わるようにしている。教育相談においては、子どもが相談相手を担任以外にもできるようにし、話しやすい環境を整備した。さらに個々の子どもに対して、「誰が」「何を」を担うのか、役割分担を明確にすることで、チームとして対応している。

② 外部機関との連携による多様な支援体制の充実

要配慮の子どもについて、市の子どもの支援課、児童相談所、学区の小学校と定期的に支援会議を行い、窓口を教頭が担っている。気になる子どもについては市教育委員会と連携し、授業参観や職員研修等を実施した上で、医療機関との面談等を行っている。また、統合先の学校に設置されている通級指導教室等とも連携し、統合後もスムーズに支援を受けることができるよう配慮している。

3 成果と課題

学校評価や教育相談アンケート等から、9割以上の子どもが学校生活でのやりがいを感じていることが明らかになった。不登校傾向のある子どもも、オンライン授業やＳＳＲにより、教室とのつながりを担保でき、教室登校する日も増加する傾向が見られた。また、外部機関との連携や職員での役割分担を明確にしたことにより、学校全体での共通理解のもと対応する体制を構築することができた。一方で、学校生活において子どもの自己決定の場を設けているが、自律的に行動するまでには至っていない。統合を見据えた際、生徒一人一人が「自分」を確立し、スムーズに新しい環境に適応できるかが、今後の課題である。

○ 協議してほしいこと

- ・ 学校（管理職もしくは教頭）として「何を」「どこまで」コーディネートすればよいのか。
- ・ 「多様な子どもの居場所づくり」のために、他校での取組を参考にしたい。



持続可能なPTA活動を目指して

～改革の具体と教頭の役割について～

長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会 長岡市立宮内小学校 丸山慎之輔

1 研究主題と課題

学校の規模や地域の実態は異なるが、どの学校においても、PTA 会員数の減少（＝児童生徒数の減少）や会員（保護者・教員）の価値観・考え方の変化などに伴い、持続可能な PTA 活動を目指した改革が求められている。しかし、当校のように、その必要性を痛感しながらも「何から始めればよいのか」と、改革の進め方に困惑している学校は少なくないと思う。新潟県小中学校教頭会が行った「令和6年度教頭の勤務実態調査報告」では、全教頭の58%が、「保護者・PTA との連携に時間と労力を費やしている」と回答している。これは、PTA 改革という見えにくい課題への対応が、その一因ではないかと推察する。

こうした状況の中で、新潟県でも比較的規模の大きな長岡市三島郡における PTA 活動の現状と改革に向けた取組や課題を共有することは、全県各校の課題解決に資することができると考える。

以上を踏まえ、長岡市三島郡の各校の PTA 活動の現状と改革に向けた取組や課題を紹介したい。その上で、私たちの取組を基に、全県の教頭先生方と「持続可能な PTA 活動」について語り合いたい。各校の取組や、改革を推進する上での教頭の役割について意見を交わし、互いの学校の今後の PTA 活動に生かしたいと考える。

2 課題解決の取組

(1) 各校の PTA 組織・活動の把握

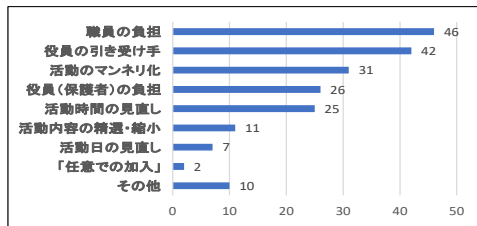
持続可能な PTA 活動に向けて、各校の現状や課題となっていることを明らかにするために、長岡市三島郡の全小中学校・総合支援学校（全84校）へアンケートを実施した。（令和7年6月実施）

① 「PTA が有効に働いた（働いている）事例を教えてください。」（以下、回答の一部要約）

- ・標準時数の適正化を図るために、行事や教育諸活動の整理を行うことを、PTA 三役と PTA 実行委員会に諮り、理解を得たことでスムーズに進めることができた。職員の業務改善につながった。
- ・150 周年記念事業会場設営・運営を PTA が主体→職員は児童の指導のみに集中できた。
- ・PTA 会費による電話対応システムの導入
- ・登校班の編成と登下校の見守り
- ・ボランティアとしての協力（校内教育支援センターの見守り、畑の肥料入れ、運動会、持久走記録会、スキー教室、プール監視ボランティアなど）

各校の取組から、子どもたちの成長を支える上で、PTA が果たしている役割の大きさを再確認することができた。活動を見直す際には、規模の縮小や廃止に方向が偏りがちになる。しかし、大切なのは、PTA 本来の目的である「保護者と教職員が協力して、子どもたちの健やかな成長を支える」（全国 PTA 連絡協議会 HP より）という原点に立ち返ることであると考えます。各校の状況を踏まえながら、子どもたちのために学校と保護者がどう協働できるかを模索していくことが、これからの時代に求められる持続可能な PTA のあり方につながると考える。

- ② 「PTA が、子ども・学校・保護者にとって、より良い組織・活動となるために、課題となっていること、課題であると考ええることを教えてください。」（各校 最大3件回答）



保護者と職員双方の負担が深刻な問題として認識され、活動時間や内容の見直しが急務であると言える。また、その負担の大きさが役員選考の難しさにもつながっていると推察する。

活動のマンネリ化は、保護者の「やらされている感」が関係していると考えられる。主体的な参加を促す手立てが必要である。

このように「負担軽減」や「主体的な参加」が多くの学校で共通した課題であることが見えてきた。

(2) 持続可能な PTA 活動に向けた各校の取組（各校からの回答の要約）

① 負担軽減

（※H&S 長岡市採用の情報発信システム）

- ・組織の簡略化（専門委員長を廃止して三役のみに／会長の仕事を副会長に分散／三役をなくす／委員会、役員数の削減）
- ・会議の開始時刻を早める。（勤務時間内に／管理職から申し出る／年度当初に三役と協議）
- ・各種行事の精選（前年度のうちに見直して確実に引き継いだ／週休日の活動を減らした）

休日のPTA活動日（R7）0日：42%（33校）1日：24%（19校）2日：22%（17校）3日：8%（6校）

- ・ICTの活用（役員への連絡を※H&Sで行う／H&Sでの案内配付／GoogleFoamでの出欠確認）
- ・PTA広報誌の見直し（ページ数減／発行回数減／廃止／学校だよりと合体／学年単位で発行）

年間発行回数（R7）0回：18%（14校）1回：9%（7校）2回：60%（45校）3回：9%（7校）

② 主体的な参加

- ・専門委員会から「ボランティア」制へ（プロジェクト制／サポーター制／公募制）

専門委員会を設置していない学校（R7）：22%（18校） ※R8から実施の予定 3校

③ 取組の実例

岡南小学校（全校 83 名）

令和6年度から7年度にかけて、①専門委員会の廃止②参加セレクト制の導入③ICTの活用などに取り組んでいる。また、三役の役割についても見直しをかけ、現在、会長1＋副会長3である総務執行部を、来年度は「会長、副会長」の呼び名をやめて、総務執行部4人で会長的な仕事を持ち回ることにする予定である。

「参加セレクト制」は、年度当初に学校が示した活動一覧から保護者を選んで参加するシステムである。各家庭年間2回の参加を依頼しているが、それ以上の参加や、祖父母の参加など、専門部として活動していた時よりも前向きに取り組む姿が多く見られる。

南中学校（全校 414 名）

令和6年度よりボランティア制に移行した。（専門部は廃止）学校行事への協力など、必要な時に保護者に参加を呼び掛けている。保護者の負担感も減らすために、各家庭〇回というような依頼はしていないが、保護者の主体的な参加で活動が支えられている。

一方、保護者間の参加意識の差が大きいので、PTA総会などの機会にPTA会長が中心となってボランティア参加の良さを伝えるように努めている。加えて今後は、活動の様子を動画で見せる等、参加したいと思えるような周知の工夫を心掛けていく。

PTA組織：会長1 副会長4 各学年委員3名ずつ（1名は副会長を兼ねる）

3 成果と今後の課題

長岡市内全教頭へのアンケートにより、多くの学校では、「負担軽減」や「主体的な参加」が課題であることが分かった。また、「市P連や県P連との関係の見直し」や「任意加入の進め方」を今後の課題とする考えが複数見られた。これらもPTA改革を進める上での重要な視点ではないかと考える。今後も、各校の取組を参考にして、「持続可能なPTA活動」を目指した改革を進めていきたい。

○ 協議してほしいこと

キーワード：「負担軽減」「主体的な参加」「市P連や県P連との関係」「任意加入」

各校の現状や取組、改革を推進する上での教頭の役割について



持続可能なコミュニティ・スクールの在り方

～ 学校と地域の意識の共有化による取組の見直し ～

見附市教頭会 見附市立見附小学校 川上 節夫

1 課 題

見附市では、「地域と共にある学校づくり」を目指し、学校・保護者・地域が一体となった総がかりの人材育成を目指す「共創郷育」を推進しており、文部科学省(2015)の「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」に基づいて、当初より「コミュニティ・スクール」を先駆的に取り入れ、各学校で取り組んできている。それにより、それぞれの学校ごとに地域との連携が進み、保護者、地域住民の教育活動への積極的な参加が実現されている。

その一方で、長きに渡って同じ方に学校運営協議委員会をお願いしている実態から、活動がマンネリ化であったり、新たな人材の獲得が困難であったりといった課題に直面している。また、働き方改革への急速な進行も世間に広まり、地域と連携することが業務の負担となっている現状もある。

これらの要因の背景として、コミュニティ・スクールの教育資源としての地域人材が、わずかな活動資金に頼ったボランティアという形態をとっていることが挙げられる。未来を創り出す子供たちの成長のために、国民一人一人が教育の当事者であるという理念だけでは、「地域とともにある学校」の実現は難しい。それに関わらず教頭は、学校の現状と課題を捉え、橋渡し役として地域連携をマネジメントしていく役割が求められている。2～3年で異動をする教頭が、地域の実情を分からないまま地域連携をマネジメントすることには限界がある。持続可能なコミュニティ・スクールを運営するためにも、ガバナンス的機能よりもソーシャル・キャピタル的機能に改善していくことが急務であると言える。

そこで、見附市教頭会では、学校運営協議会が単なる学校評価の場にならないよう、コミュニティ・スクールの現状と課題を捉え直し、持続可能な「地域とともにある学校」の在り方を検討している。どのようなことに取り組んでいるのかを以下に紹介していく。

2 課題解決の取組

(1) コミュニティ・スクールの現状と課題の洗い出し

見附市教頭会では、各学校の課題についてアンケートを行った結果、多くの学校でコミュニティ・スクールについて課題があることが見えてきた。課題について整理し、以下の結果を得た。

① ボランティアの意識と教職員の意識のズレ

教職員が地域ボランティアにお願いしたいことはたくさんあるが、授業とかかわりのないところについては関心が薄い。逆に、地域の人が可能だと考えるボランティアも、直接子供の教育にかかわることよりは、環境整備の面が大きくなっている。教職員とボランティアとの間に意識のズレがある。

② 新たな人材の獲得

地域人材はボランティアが主であるため、長年ボランティアをされてきた方、子供が卒業された方が務めているが、必ずしも毎年、人材確保が約束されているわけではない。次の人材の確保に向け、どのように募集し、どのようにやりがいを持っていただくかが課題である。

③ 連絡・調整の難しさ

職員にとって、毎日の計画の中で教育活動が行われているが、1か月先まで確実に計画通り進めることは困難である。急遽、支援が必要になることは日常茶飯事である。その一方で、ボランティアを頼む方にも都合があり、突然の支援はなかなか難しく、連絡・調整が容易にできないと、協力を得ることが難しい状況がある。

(2) 地域とともにある学校を目指した取組

見えてきた課題に対してどのようなことができるかを検討し、自校で実践できたことを紹介する。

① 拡大運営協議会の開催

年度始めの第1回学校運営協議会を委員だけではなく、全職員の関心を高めるために全職員参加で熟議を行った。テーマを「生活科、総合的な学習の時間の年間指導計画の検討」「学校支援ボランティアの活動を充実させるためのアイデア」の2つとした。

学年部ごと学校運営協議委員の方1名に入っていただき、総合的な学習の時間の年間指導計画について話し合った。どんな活動をしたいのか職員が説明し、委員の方から地域の「人・もの・こと」を中心にどんな活動ができるかアドバイスをいただく。また、学校ボランティアの方を増やすために、職員、地域の方双方の願いについて話し合い、ボランティア活動の内容について検討を行った。

② ボランティアとの顔合わせ会の実施

学校支援ボランティアに登録していただいている方から集まっていただき、横のつながりづくりや今後のボランティア活動を充実について検討会を行った。主に話し合った内容は、『新規ボランティアの募集方法』、『参加申込方法』、『子供とのつながり方』、『ボランティア内容』とした。

③ 連絡調整の簡略化

日常活動（いつでも都合のつく時に自由に来て行える活動）と特別活動（日時が決まっている活動）の2つがある。日常活動は内容のみをお知らせしておき、自由に来て行っている。（花壇の草取り・トイレ掃除・昼休みの見守り等）。特別活動は職員が必要に応じて担当者（主幹教諭）に報告し、日時をボランティアにメール配信をしている。出欠は取らず、来ることが可能な方のみ参加していただいている（校外学習の見守り・裁縫等の支援・花植えの支援等）。

④ ボランティアの方への感謝のフィードバック

未来を創り出す子供たちの成長を学校と地域と協力することがねらいであるため、ボランティアの方への感謝は、手紙等の過度な負担を減らし、廊下ですれ違ったときに挨拶（こんにちは）をしたり、運動会・音楽会等子供の活躍する活動へ招待したりするなど、負担のない方法で感謝の気持ちを伝えることにしている。

3 成果と今後の課題

- 学校運営協議会で職員の意見を届けたり、運営委員の意見を聞いたりして、お互いの意識を共有化することで、無理のない活動につながっている感覚がある。持続可能なコミュニティ・スクールを運営するには、説明責任を果たす活動を重視するよりも、「信頼」「互酬性」「ネットワーク」を重視して活動を見直していくことが重要であることが分かった。

▲ ボランティアの活動を地域に発信し、地域全体に関心を広げていくにはまだ改善の余地がある。

○ 協議してほしいこと

- ①働き方改革を進める中で、特色のある学校づくりを行っていくには、教頭はどんな役割を果たすとよいのか。
- ②地域の方が、コミュニティ・スクールへの関心を高めるために、教頭が果たす役割は何か。



研若手教員の授業力と生徒指導力

を高める研修と組織体制

～新潟県の教員等育成指標をもとにした若手教員の育成～

南魚沼市教頭会 南魚沼市立おおまき小学校 五十嵐 啓滋

1 課 題

当県には教員獲得困難地域に指定されている地域が数か所あり、本校所在の南魚沼市もこれにあたる。このような地域の傾向として若手が多い傾向があり、当市の場合全体の職員の44%程度が採用6年目までとなっている。

若手教員は数年で都市部へ異動し、新規に若手が配置され、継続的に若手教員の占める割合が高い地域となっている。そのため、当地域では、学校運営にとっても、各校・南魚沼市教頭会にとっても、若手教員の成長が、喫緊の課題となっている。

本研究は南魚沼市の教頭会として共有した課題解決の方策の一つとして実践したものである。新潟県の教員等育成指標をもとにした若手教員への授業研修や、生徒指導でのOJT研修で若手教員の専門性を高める組織体制は、中堅・ベテラン教員の育成にもつながるのではないかと考えた。

各校の取組や当校の研究成果を教頭会を通して市内の学校間で共有し、自校の実態に合わせて実施していくことで、市全体で教員の専門性を育成することができると考えた。

2 課題解決の取組

当校は各学年1学級、特別支援学級3学級であり、通常級担任の構成は初任者1名、2年目1名、3年目1名、30代1名、40代1名、50代1名となっている。

新潟県の教員等育成指標に基づく若手教員育成過程を通して、中堅・ベテランの専門性も更に高められるようにしたいと考え実践した。

(1) 学習指導において育成指標に近づくようにするための方策

県育成指標に従って、本校が特に重視したのは以下の2点である。「学習指導要領の目標と内容に沿って児童生徒の実態に合った授業を行うことの重要性を理解している」及び「板書や発問等の基本的技術を身に付けるとともに、児童の考えを引き出す課題を設定しようとしている」である。教頭として、指標達成のためのPDCAサイクルを行う組織体制を整え、教員個人へのフィードバックを行った。具体的には以下の2点である。

第1に、PDCAサイクルのための組織体制として、研究主任が研究推進委員会を定期的を開催するよう校内体制を整えた。構成メンバーで授業等を検討し、学習指導に係るPDCAサイクルを確立した。教頭として授業参観後は、指標を基にしたフィードバックを行い、若手教員の取組みを激励した。これにより、若手教員育成の方向性が大きくぶれることなく、教員個々人の成長段階に応じた授業が展開されることとなった。

第2に、中堅・ベテラン教員の育成システムへの組み込み、指導・助言のシステムを構築した。中堅教諭及びベテラン教諭が率先して授業公開をし、若手教員にとって指標の具体的なイメージをもっても

らった。若手教員のモデルになっているという価値付けを行い、リーダーとして一層の成長を促せた。さらに、外部の指導者に定期的に若手教員の指導を依頼したり、他校の授業参観ができるように、中学校区内の相互授業参観のシステムを構築したりした。これにより、若手教員は授業がイメージしやすくなり、多くのよい授業に触れることで、授業のスキルアップにも繋がった。

（２）生徒指導においてチームで対応することで育成指標に近づける方策

本校では県育成指標に従って、若手教員には「いじめ対応、心のケア等、学校事故の未然防止と安全配慮義務について理解し、迅速且つ組織的に対応する」及び「児童生徒一人一人の実態に沿った指導の重要性を理解する」の２点の育成を図った。また、中堅・ベテラン教員には「生徒指導を組織的・計画的に行うための長期的な見通しをもち、教職員に対して指導・助言をする」について育成を図った。

困難課題対応的生徒指導を進めていくには、目指す児童像や指導の考え方を共有し、全校的な指導体制を構築することが必要である。そのために、以下の２点を大切にし、実践した。

１つ目は生徒指導体制の構築である。年度当初に生徒指導部が生徒指導マニュアルで全教員の共通理解を図り、生徒指導の方針・基準を明確化した。その上で対応的な生徒指導事案が起きた際に、若手教員と中堅・ベテラン教員がチームで対応することとし、どの場面で誰が対応するか等の校内連携体制を整えた。こうした体制の下、若手教員はマニュアルだけでは難しい生徒指導の対応をOJTで学ぶことができた。また、中堅・ベテランにとっても若手に助言・指導を行ったり、生徒指導の対応をモデルとして見せたりするため、能力の向上を図ることができた。教頭として生徒指導主任等関わる職員を集め相談する場を設定したり、校長への報告相談、最終的にどのように解決したか確認したりした。

２つ目は、予防的な取組である。年間を通して組織的な取組ができるように、生徒指導部に「月の生活目標の設定・振り返り」「定期的な児童の情報交換の会」「WEBQUによる学級の状況や児童理解」を行うよう指示し、よりよい学級経営が行えるようにした。

３ 成果と今後の課題

（１）成果

学校評価の項目で、「国語・算数が分かる」・「クラスで困っていることはあるか」について子ども達の自己評価の変容（１から２学期）を調べた結果、数値的に児童の学習・生活の満足感は向上している。

	若手	若手	若手	ベテラン	中堅	ベテラン
国語	78→88	95→95	88→100	90→95	92→88	84→91
算数	94→100	86→90	88→94	71→90	92→72	91→91

	若手	若手	若手	ベテラン	中堅	ベテラン
ない	78→88	86→72	64→82	61→85	76→100	95→91

また、当校の若手教員に学習指導と生徒指導について聞いてみたところ、「型を覚えるのは最初は大変だったが覚えると授業の内容を考えるのに力を入れられるので、とてもよかった。」「授業を公開する機会が多いのは大変だったが、自分でも少しずつ上手くいくようになっていっているのが分かってよかった。」「トラブルの解決の過程がよく分かった。」など肯定的な感想だった。

（２）課題

南魚沼市教頭会で共有した課題と成果を各校で生かし、若手育成に重点を置いて実践を続けていく。

○ 協議してほしいこと

- ・若手教員の教師としての能力の向上に関わる組織的な取組



研究主題 教職員の専門性の向上を図る教頭の在り方

～ 新潟市中学校教頭会による協働的な取組 ～

新潟市中学校教頭会 新潟市立宮浦中学校 石原 直樹

1 課 題

新潟市中学校教頭会では、次の①～④の現状と課題を踏まえ、主題を設定した。

- ① 現在50代の教職員が多く、退職者の増加が続く。また、それに伴い若年層の増加も見込まれる。
- ② 多様な教育課題に的確かつ組織的に対応できるようになる教職員を専門性が向上した教職員とし、その人材育成が教頭に求められている。
- ③ 新潟市中学校教頭会は、新潟市内中学校56校と中等教育学校1校の62名の教頭で構成されており、現在その半数程度は、教頭経験2年未満である。そのため、各種課題（教育課程、人材育成、小中一貫、働き方改革）についての情報や取組方法について見識を高める機会や各校の課題や実際の取組について情報を共有する機会が、教頭会に求められている。
- ④ 新潟市内の中学校全体で、ある程度の方向性を共有し、自校化に向けて、教頭がかかわり、活動することを協働的な取組とする。

そこで、新潟市中学校教頭会として、次のような研究仮説を設定した。

仮説

新潟市中学校教頭会における協働的な取組（最先端の情報・情勢・取組方法をインプットし、各校の課題や取組内容を共有すること）を通して、課題解決の自校化や教職員の専門性（的確かつ組織的に対応できる力）の向上を図ることができる。

また、『新潟市教育ビジョン第4期実施計画』に示された課題を遂行するため、4つの【教育課題に関する部会】を設置している。全会員がいずれかの部会に所属し、各部会で自主研修を企画、運営しながら研修を深めてきた。4つの【教育課題に関する部会】及び課題は以下の通りである。

- ①「教育課程部」 ②「小中一貫教育部」 ③「人材育成推進部」 ④「働き方改革部」

自信をもって、生き生きと生徒と共に活動する教職員を育成することは、教頭としての大切な職務の1つである。新潟市中学校教頭会のスローガンである「支え合い高め合う教頭会」「明るく楽しく助け合う教頭会」を実現するため、主題を設定した

2 課題解決の取組

(1) 取組の経過

- ① 各部会2回ずつの研修を企画・運営する。

- ② 課題を把握するため、事前アンケートを実施する。
- ③ 講演会后、グループ協議を行い、情報共有及び課題解決方法について意見交換を行い、自校の取組につなげる。
- ④ 振り返りアンケートを行い、その結果を集計・公表し、学びを共有する。

(2) 取組の概要

① 「教育課程部」

R4年度「GIGAスクール構想」R5年度「アフターコロナの教育課程」

R6年度「教育課程の編成・実施・評価」「新潟市教育ビジョン第4期実施計画の成果と課題」

② 「小中一貫教育部」※R7年度より「地域連携教育部」に名称変更

R4年度「CSから見る教頭の役割と期待」R5年度「地域とともにある学校を目指して」

R6年度「改めて今、新潟市の小中一貫教育を考える」「地域とともにある学校づくり」

③ 「人材育成推進部」

R4年度「校内における若手の育成」R5年度「若手・中堅教員育成の重要性」

R6年度「教職員の育成と教頭の役割」「人材育成力・組織マネジメント力の向上」

④ 「働き方改革部」

R4・5年度「各校の超過勤務の実態と取組」「部活動の地域移行」

R6年度「第4次多忙化解消行動計画」「教職員のウェルビーイング」

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① アンケートより、4つの部会で取り上げた教育課題に関して、教頭自身の課題意識を醸成することができたといえる。
- ② 月に1度の定期開催で行われるため、教頭としての悩みが共有され、一人で業務を抱え込まない相互支援ができています。
- ③ 自主的、協働的な研修を企画・運営することを通して、教頭会のスローガンである「明るく、楽しく、助け合う」体制が構築されている。

(2) 課題

- ① アンケートより、教頭自身の意識の醸成はできたが、自校化への取組や教職員へのアプローチについては、やや評価が低かった。今後は各校での実践力向上を目指し、他校の事例から学ぶ研修を通して、自校化への一助にしていきたい。
- ② アンケートより、教職員へのアプローチについても取り組む必要がある。学校により様々な違いはあるが、より具体的な方法を共有できる研修を企画していくことで教職員の専門性を向上させていきたい。

4 協議してほしいこと

- (1) 国、県、市の動向や教育課題を教頭自身が把握することは概ねできていると思われる。しかし、学校規模や環境、保護者・地域との関係などに違いがあり、各学校で自校化し、具体的にに取り組むことは難しいようである。どのような取組があれば、各学校の教頭が自校化しやすくなるか。
- (2) 教職員の人数や年齢構成にも違いがある。若手、中堅、ベテランといった教職員にどのような声かけやアプローチが有効であるのか。どのような取組があれば、各学校の教頭が教職員の専門性の向上を図りやすくなるか。

分科会 1A
1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	小	1	胎内市	中榮小学校	網代 錦一	副実行委員長
	小	2	新発田市	外ヶ輪小学校	佐野 亮太	分科会運営（進行）
	小	3	新発田市	川東小学校	川崎 英樹	会場設営（機器操作）
	小	4	新発田市	佐々木小学校	水澤 公彰	事務副部長
	小	5	新潟市	竹尾小学校	塚本 弓子	提言者
	小	6	新潟市	東山の下小学校	福田 愛日	支援者
	小	7	新潟市	有明台小学校	佐藤 恵美	司会者
	小	8	新潟市	桃山小学校	近藤 辰雄	記録者
1	小	9	新潟市	山の下小学校	若月 孝夫	グループ司会
1	小	21	新潟市	南浜小学校	佐久間 みつ子	
1	小	33	新潟市	白山小学校	高橋 裕幸	グループ記録・発表
1	小	45	柏崎市	横原小学校	清水 正明	
1	小	57	長岡市	寺泊小学校	草分 智昭	
1	小	69	十日町市	十日町小学校	若井 義弘	
1	小	81	村上市	村上小学校	佐久間 隆司	
2	小	10	新潟市	大形小学校	金子 和雄	
2	小	22	新潟市	太夫浜小学校	後藤 克彦	グループ司会
2	小	34	新潟市	新潟小学校	荒木 学	
2	小	46	柏崎市	大洲小学校	福永 純恵	グループ記録
2	小	58	長岡市	信条小学校	関原 鉄樹	
2	小	70	十日町市	田沢小学校	黒田 学	
2	小	82	村上市	村上南小学校	込山 寛	
3	小	11	新潟市	大形小学校	米山 陽子	
3	小	23	新潟市	濁川小学校	野上 丈成	
3	小	35	上越市	大手町小学校	早川 尚美	グループ司会
3	小	47	糸魚川市	磯部小学校	猪田 謙	
3	小	59	長岡市	栃尾東小学校	兒玉かおる	グループ記録
3	小	71	津南町	芦ヶ崎小学校	岡田 啓吾	
3	小	83	村上市	岩船小学校	加藤 僚	
4	小	12	新潟市	中野山小学校	坂上 剛	
4	小	24	新潟市	葛塚小学校	佐藤 努	
4	小	36	上越市	東本町小学校	保坂 国馨	
4	小	48	糸魚川市	能生小学校	山田 幸司	グループ司会
4	小	60	長岡市	東谷小学校	家老 尊則	
4	小	72	見附市	名木野小学校	岡田 順子	グループ記録
4	小	84	五泉市	五泉小学校	山口 伸也	
5	小	13	新潟市	木戸小学校	松田 康伸	
5	小	25	新潟市	葛塚東小学校	佐藤 昌寿	
5	小	37	上越市	飯小学校	村松 研一	
5	小	49	妙高市	新井小学校	長澤 虎幸	
5	小	61	出雲崎町	出雲崎小学校	伊藤 裕希	グループ司会
5	小	73	魚沼市	須原小学校	佐藤 宏	※欠席
5	小	85	阿賀野市	安田小学校	細谷 賢吾	グループ記録・発表
6	小	14	新潟市	東山の下小学校	大石 真裕	グループ記録
6	小	26	新潟市	木崎小学校	高橋 新一	
6	小	38	上越市	富岡小学校	大野 隆司	
6	小	50	長岡市	阪之上小学校	館岡 信也	
6	小	62	三条市	西郷田小学校	本村 真理	
6	小	74	魚沼市	湯之谷小学校	本田 正樹	グループ司会
6	小	86	佐渡市	赤泊小学校	中野 裕	
7	小	15	新潟市	下山小学校	三浦 美也子	
7	小	27	新潟市	早通南小学校	小林 治雄	グループ記録
7	小	39	上越市	稲田小学校	米岡 洋	グループ司会
7	小	51	長岡市	富岡亀小学校	鈴木ひとみ	
7	小	63	三条市	森町小学校	佐藤 康子	
7	小	75	南魚沼市	大崎小学校	品田 勉	
7	小	87	佐渡市	羽茂小学校	高橋 栄介	※欠席
8	小	16	新潟市	牡丹山小学校	本田 敬浩	グループ司会
8	小	28	新潟市	岡方第一小学校	小野 樹	
8	小	40	上越市	大和小学校	長谷川 裕美	グループ記録
8	小	52	長岡市	栖吉小学校	菅家 淳也	
8	小	64	三条市	大崎学園	安中 忠政	
8	小	76	南魚沼市	中之島小学校	家塚 大樹	
8	小	88	佐渡市	二宮小学校	田上 敬一	
9	小	17	新潟市	東中野山小学校	大越 啄櫻	
9	小	29	新潟市	岡方第二小学校	山崎 貴志	グループ司会
9	小	41	上越市	春日小学校	丸山 悟	
9	小	53	長岡市	関原小学校	吉川 俊輔	グループ記録
9	小	65	小千谷市	小千谷小学校	横山 貴司	
9	小	77	南魚沼市	塩沢小学校	関 和則	
9	小	89	佐渡市	岡津吉井小学校	金子 亘	
10	小	18	新潟市	南中野山小学校	椎野 越子	
10	小	30	新潟市	浜浦小学校	里村 横	
10	小	42	上越市	高志小学校	内藤 寿一	グループ司会
10	小	54	長岡市	希望が丘小学校	酒井 哲央	
10	小	66	小千谷市	千田小学校	廣川 沙織	グループ記録・発表
10	小	78	燕市	燕西小学校	小林 典和	
11	小	19	新潟市	江南小学校	石月 直敬	
11	小	31	新潟市	関屋小学校	山上 和子	
11	小	43	上越市	三郷小学校	杉田 良子	
11	小	55	長岡市	上通小学校	鴨井 巖	グループ司会
11	小	67	加茂市	須田小学校	荒井 純	
11	小	79	燕市	小中川小学校	岸 亮	グループ記録
12	小	20	新潟市	松浜小学校	牛脇 賢一	グループ記録
12	小	32	新潟市	鏡淵小学校	木村 杏子	
12	小	44	柏崎市	半田小学校	大森 竜功	
12	小	56	長岡市	脇野町小学校	栗林 育雄	
12	小	68	加茂市	七谷小学校	亀山 和美	グループ司会
12	小	80	燕市	燕南小学校	佐藤 晋	

分科会 1B

1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	中	1	胎内市	中条中学校	丸山 温	会場設営（機器操作）
	中	2	新発田市	第一中学校	渡邊 正則	分科会運営（進行）
	中	3	新発田市	七葉中学校	山田 絵美子	事務部長
	中	4	新発田市	加治川中学校	廣澤 正文	会計・文書処理〇
	中	5	聖籠町	聖籠中学校	田中 健太	分科会運営（進行）
	小	6	上越市	安塚小学校	竹内 淳	司会者
	小	7	上越市	黒田小学校	山岸 英昭	記録者
	中	8	上越市	八千浦中学校	平野 彰子	提言者
	中	9	上越市	頸城中学校	工藤 寛之	支援者
1	小	10	上越市	南本町小学校	大友 宏幸	グループ司会
1	中	19	糸魚川市	能生中学校	熊木 勝	
1	中	28	出雲崎町	出雲崎中学校	細谷 大祐	グループ記録
1	中	37	津南町	津南中学校	上坂 知大	
1	中	46	新潟市	曽野木中学校	小田 久美子	
1	中	55	新潟市	巻西中学校	酒井 文彦	
1	中	64	阿賀野市	水原中学校	本保 逸彦	
2	小	11	上越市	和田小学校	疊 和弘	
2	中	20	妙高市	新井中学校	中村 哲明	グループ司会
2	中	29	三条市	第二中学校	桐生 聡	
2	中	38	見附市	南中学校	石澤 克彦	グループ記録・発表
2	中	47	新潟市	両川中学校	永井 昌樹	
2	中	56	新潟市	松浜中学校	荒井 崇博	
2	中	65	佐渡市	松ヶ崎中学校	佐藤 和幸	
3	中	12	上越市	城東中学校	倉若 拓人	
3	中	21	長岡市	東中学校	大塚 賢一	
3	中	30	三条市	大島中学校	住吉 英明	グループ司会
3	中	39	魚沼市	魚沼北中学校	大羽賀 薫	
3	中	48	新潟市	新津第二中学校	澤田 栄三郎	グループ記録
3	中	57	新潟市	小須戸中学校	幸田 真樹	
3	中	66	佐渡市	相川中学校	恩田 隆介	
4	中	13	上越市	直江津中学校	矢坂 哲	
4	中	22	長岡市	東北中学校	土倉 秀夫	
4	中	31	三条市	大崎学園	穴澤 典明	
4	中	40	魚沼市	広神中学校	樋口 太郎	グループ司会
4	中	49	新潟市	新津第五中学校	松本 康治	
4	中	58	村上市	村上第一中学校	田島 隆之	グループ記録
4	中	67	佐渡市	新穂中学校	梶原 敦	
5	中	14	上越市	柿崎中学校	田口 秀行	グループ記録・発表
5	中	23	長岡市	山本中学校	山際 貢	
5	中	32	小千谷市	千田中学校	猪股 幸	
5	中	41	南魚沼市	塩沢中学校	金澤 和広	
5	中	50	新潟市	金津中学校	大滝 仁	グループ司会
5	中	59	村上市	村上東中学校	本保 美帆子	
5	中	68	加茂市	須田中学校	渡邊 邦博	
6	中	15	上越市	牧中学校	大森 己智子	
6	中	24	長岡市	青葉台中学校	若林 圭太	グループ記録
6	中	33	小千谷市	片貝中学校	皆川 祐介	
6	中	42	燕市	吉田中学校	山本 伸寿	
6	中	51	新潟市	味方中学校	坂上 直樹	
6	中	60	村上市	岩船中学校	中山 久司	グループ司会
6	中	69	加茂市	若宮中学校	大谷 昌弘	
7	中	16	柏崎市	第一中学校	巻口 礼子	グループ司会
7	中	25	長岡市	越路中学校	長谷川信之	
7	中	34	十日町市	十日町中学校	疋田 克彦	グループ記録
7	中	43	新潟市	東新潟中学校	坂 哲也	
7	中	52	新潟市	中野小屋中学校	坂井 友紀	
7	中	61	五泉市	五泉中学校	加藤 知広	
8	中	17	柏崎市	第三中学校	桑原 大和	
8	中	26	長岡市	小国中学校	坂田 和也	グループ司会
8	中	35	十日町市	下条中学校	加藤 輝	
8	中	44	新潟市	大形中学校	間宮 智子	グループ記録・発表
8	中	53	新潟市	東石山中学校	土田 知之	
8	中	62	五泉市	五泉北中学校	金泉 圭	
9	中	18	柏崎市	西山中学校	小林 純	
9	中	27	長岡市	秋葉中学校	阿部 共博	
9	中	36	十日町市	中里中学校	佐藤 光介	グループ司会
9	中	45	新潟市	白新中学校	瀬野 大吾	
9	中	54	新潟市	光晴中学校	倉島 陽介	グループ記録
9	中	63	阿賀野市	安田中学校	石塚 晃一	

分科会 2A
1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	小	1	新発田市	猿橋小学校	大石 康範	副実行委員長
	小	2	新発田市	七葉小学校	中村 克行	研修部長(フリー)
	小	3	新発田市	紫雲寺小学校	五十嵐 敦志	会場設営(機器操作)
	小	4	聖籠町	亀代小学校	中野 史子	会場設営(機器操作)
	小	5	胎内市	きのと小学校	渡邊 芳哉	分科会運営(進行)
	小	6	佐渡市	小木小学校	松田 健太	提言者
	小	7	佐渡市	行谷小学校	猪股 快門	支援者
	小	8	佐渡市	八幡小学校	藤井 憲之	司会者
	小	9	佐渡市	相川小学校	貝瀬 健太郎	記録者
1	小	10	佐渡市	河崎小学校	野崎 善功	グループ司会
1	小	22	柏崎市	荒浜小学校	矢嶋 香織	
1	小	34	長岡市	豊田小学校	中村 周	グループ記録
1	小	46	小千谷市	片貝小学校	長谷川 美恵	
1	小	58	南魚沼市	後山小学校	下村 依美子	
1	小	70	新潟市	女池小学校	西村 和代	
1	小	82	新潟市	横越小学校	大竹 直志	
2	小	11	上越市	戸野目小学校	横尾 研一	
2	小	23	糸魚川市	南能生小学校	山崎 正義	グループ司会
2	小	35	長岡市	川崎東小学校	飯塚 理史	
2	小	47	加茂市	石川小学校	堀内 亨	グループ記録
2	小	59	燕市	燕東小学校	林部 雄一	
2	小	71	新潟市	女池小学校	齋藤 誠也	
2	小	83	村上市	瀬波小学校	川嶋 邦夫	
3	小	12	上越市	上雲寺小学校	永森 幸代	
3	小	24	糸魚川市	中能生小学校	高瀬 育子	
3	小	36	長岡市	福戸小学校	平松 寛隆	グループ司会
3	小	48	加茂市	加茂南小学校	金塚 辰也	
3	小	60	燕市	栗生津小学校	金田 裕介	グループ記録・発表
3	小	72	新潟市	南万代小学校	竹内 義雄	
3	小	84	村上市	山辺里小学校	小林 朋恵	
4	小	13	上越市	大町小学校	亀山 亨	
4	小	25	糸魚川市	下早川小学校	根津 恭子	
4	小	37	長岡市	越路小学校	小田 尚和	
4	小	49	十日町市	中条小学校	吉田 真也	グループ司会
4	小	61	燕市	小池小学校	若杉 文健	
4	小	73	新潟市	上山小学校	才川 洋子	グループ記録
4	小	85	村上市	保内小学校	小野 浩由	
5	小	14	上越市	高士小学校	熊木 喜隆	
5	小	26	妙高市	斐太北小学校	浅山 景	
5	小	38	長岡市	和島小学校	栗林 智代	
5	小	50	十日町市	下条小学校	涌井 学	
5	小	62	新潟市	日和山小学校	大滝 和子	グループ司会
5	小	74	新潟市	上山小学校	神子島 強	
5	小	86	五泉市	五泉南小学校	齋藤 忍	グループ記録
6	小	15	上越市	八千浦小学校	鹿島 真由美	グループ記録
6	小	27	妙高市	新井南小学校	炭谷 倫子	
6	小	39	長岡市	与板小学校	山崎 武	
6	小	51	十日町市	西小学校	佐野 完	
6	小	63	新潟市	万代長嶺小学校	鈴木 貴之	
6	小	75	新潟市	桜が丘小学校	中村 直貴	グループ司会
6	小	87	阿賀野市	笹岡小学校	伊東 良枝	
7	小	16	上越市	直江津小学校	外立 努	※ 欠席
7	小	28	長岡市	表町小学校	金子 優誠	グループ司会
7	小	40	三条市	嵐南小学校	石原 淳一	グループ記録・発表
7	小	52	津南町	上郷小学校	宗村 賢一	
7	小	64	新潟市	沼垂小学校	高野 義友	
7	小	76	新潟市	紫竹山小学校	霧巻 義和	
8	小	17	上越市	直江津南小学校	山田 秀幸	
8	小	29	長岡市	千手小学校	高橋 雅和	グループ司会
8	小	41	三条市	栄中央小学校	金谷 良弓	
8	小	53	見附市	見附第二小学校	高橋 美雪	グループ記録
8	小	65	新潟市	山潟小学校	吉田 先保	
8	小	77	新潟市	丸山小学校	祐田 聖子	
9	小	18	上越市	北諏訪小学校	入村 文子	
9	小	30	長岡市	黒条小学校	太田 裕樹	
9	小	42	三条市	長沢小学校	谷内田 誠	グループ司会
9	小	54	魚沼市	堀之内小学校	金澤 健志	
9	小	66	新潟市	上所小学校	栢澤 誠	グループ記録
9	小	78	新潟市	大淵小学校	堀井 雅志	
10	小	19	上越市	保倉小学校	五十嵐 有紀子	
10	小	31	長岡市	新組小学校	坂口 敏生	
10	小	43	三条市	飯田小学校	大井 英揮	
10	小	55	魚沼市	広神東小学校	中町 道子	グループ司会
10	小	67	新潟市	鳥屋野小学校	本間 知可	
10	小	79	新潟市	曾野木小学校	近藤 克博	グループ記録
11	小	20	柏崎市	新道小学校	西川 哲平	グループ記録・発表
11	小	32	長岡市	才津小学校	齋藤 晃	
11	小	44	小千谷市	小千谷小学校	金井 淳	
11	小	56	南魚沼市	三用小学校	山本 浩子	
11	小	68	新潟市	鳥屋野小学校	江端 正昭	グループ司会
11	小	80	新潟市	西川小学校	市橋 良太	
12	小	21	柏崎市	日吉小学校	加藤美奈子	
12	小	33	長岡市	下川西小学校	土田健太郎	グループ記録
12	小	45	小千谷市	和泉小学校	小曾納 純子	
12	小	57	湯沢町	湯沢町立湯沢小学校	和田 望	
12	小	69	新潟市	笹口小学校	金川 千穂	
12	小	81	新潟市	東曾野木小学校	澤栗 賢一	グループ司会

分科会 2B

1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	中	1	新発田市	東中学校	長谷川 直紀	分科会運営（進行）
	中	2	新発田市	佐々木中学校	小出 祐一	研修副部長
	中	3	新発田市	豊浦中学校	清野 正康	副実行委員長
	中	4	胎内市	黒川中学校	中野 貴広	会場設営（機器操作）
	小	5	柏崎市	鯖石小学校	前川 牧人	支援者
	小	6	柏崎市	枇杷島小学校	小倉納 司	司会者
	中	7	柏崎市	第五中学校	木本 高志	提言者
	中	8	柏崎市	北条中学校	室 稔	記録者
1	小	9	柏崎市	柏崎小学校	矢嶋 隆之	グループ司会
1	中	18	上越市	潮陵中学校	新保 成美	
1	中	27	長岡市	三島中学校	南保 賢治	グループ記録
1	中	36	十日町市	中条中学校	駒野 哲哉	
1	中	45	新潟市	木崎中学校	伊比 康明	
1	中	54	新潟市	白根北中学校	広野 尚子	
1	中	63	村上市	神林中学校	渡辺 利一	
2	小	10	柏崎市	田尻小学校	西巻 純代	
2	中	19	上越市	東頸中学校	小磯 雅浩	グループ司会
2	中	28	長岡市	北辰中学校	田村 一飛	
2	中	37	十日町市	水沢中学校	廣田 公生	グループ記録・発表
2	中	46	新潟市	岡方中学校	金澤 達也	
2	中	55	新潟市	内野中学校	野邊 勝一郎	
2	中	64	五泉市	村松桜中学校	松田 祐介	
3	中	11	柏崎市	瑞穂中学校	松永 昭夫	
3	中	20	上越市	大潟町中学校	大桃 和行	
3	中	29	長岡市	刈谷田中学校	元川 勝宏	グループ司会
3	中	38	十日町市	松代中学校	笠野 恭子	
3	中	47	新潟市	早通中学校	藤田 淳	グループ記録
3	中	56	新潟市	五十嵐中学校	熊木 裕之	
3	中	65	阿賀野市	笹神中学校	五十嵐 匠	
4	中	12	柏崎市	柏崎翔洋中等教育学校	小松 祐貴	
4	中	21	糸魚川市	糸魚川東中学校	倉又 佳宏	
4	中	30	三条市	第三中学校	関 拓也	
4	中	39	見附市	見附中学校	山下 晃司	グループ司会
4	中	48	新潟市	藤見中学校	小沢 俊夫	
4	中	57	新潟市	潟東中学校	池 孝司	グループ記録
4	中	66	佐渡市	両津中学校	古塩 豪	
5	中	13	上越市	城北中学校	佐藤 文人	
5	中	22	妙高市	妙高高原中学校	水野頌之助	
5	中	31	三条市	本成寺中学校	須藤 剛司	
5	中	40	魚沼市	湯之谷中学校	力間 博隆	
5	中	49	新潟市	木戸中学校	長谷川 智明	グループ司会
5	中	58	新潟市	中之口中学校	齋藤 佑	
5	中	67	佐渡市	南佐渡中学校	佐藤 吉史	グループ記録
6	中	14	上越市	城西中学校	近藤 和久	
6	中	23	長岡市	南中学校	岸 崇	グループ記録・発表
6	中	32	三条市	栄中学校	鮮良 靖宏	
6	中	41	湯沢町	湯沢町立湯沢中学校	加藤 賢	
6	中	50	新潟市	上山中学校	齋藤 大紀	
6	中	59	新潟市	下山中学校	玉井 博史	
6	中	68	佐渡市	真野中学校	山岸 透	グループ司会
7	中	15	上越市	雄志中学校	柳澤 淳	グループ司会
7	中	24	長岡市	西中学校	松木 満	
7	中	33	小千谷市	南中学校	今井 基春	グループ記録
7	中	42	燕市	燕中学校	高橋 淳一	
7	中	51	新潟市	上山中学校	倉島 庸子	
7	中	60	新潟市	山の下中学校	志田 靖之	
8	中	16	上越市	直江津東中学校	大島 弘士	
8	中	25	長岡市	関原中学校	大門 祥	グループ司会
8	中	34	小千谷市	東小千谷中学校	南雲 桂太	
8	中	43	燕市	分水中学校	高橋 正明	グループ記録
8	中	52	新潟市	亀田西中学校	堀口 晃一	
8	中	61	新潟市	月潟中学校	坪川 淳助	
9	中	17	上越市	春日中学校	長澤 崇広	
9	中	26	長岡市	旭岡中学校	桶谷 圭介	
9	中	35	加茂市	七谷中学校	五十嵐 仁	グループ司会
9	中	44	新潟市	濁川中学校	和田 麻友美	
9	中	53	新潟市	小合中学校	小林 直子	グループ記録・発表
9	中	62	村上市	荒川中学校	山本 亘	

分科会 3(3)
1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	小	1	新発田市	御免町小学校	片野 一輝	実行委員長(フリー)
	小	2	新発田市	豊浦小学校	関 慎太郎	会計・文書処理◎
	中	3	新発田市	猿橋中学校	高山 雄一	分科会運営(進行)
	小	4	胎内市	胎内小学校	嵐 直人	会場設営(機器操作)
	中	5	胎内市	築地中学校	倉町 宏治	分科会運営(進行)
	小	6	長岡市	宮内小学校	丸山 慎之輔	提言者
	小	7	長岡市	上組小学校	黒岩 昭伸	支援者
	中	8	長岡市	宮内中学校	渡辺 元子	司会者
	中	9	長岡市	岡南中学校	牧 周民	記録者
1	小	10	長岡市	前川小学校	佐藤 貴幸	グループ司会
1	小	12	長岡市	川口小学校	馬場 剛	
1	中	32	柏崎市	松浜中学校	土田 貴宏	グループ記録
1	小	43	小千谷市	東小千谷小学校	竹内 智光	
1	中	54	南魚沼市	六日町中学校	齊藤 剛	
1	小	65	新潟市	庄瀬小学校	志田 江利子	
1	小	71	新潟市	大通小学校	村山 香織	
2	小	11	長岡市	十日町小学校	伊藤 潤子	
2	中	22	長岡市	江陽中学校	古川 俊輔	グループ司会
2	小	33	糸魚川市	大和川小学校	近藤 克彦	
2	小	44	加茂市	下条小学校	池田 利充	グループ記録・発表
2	小	55	燕市	大関小学校	藤田 吉成	
2	小	66	新潟市	小林小学校	関野 幹裕	
2	中	77	新潟市	鳥屋野中学校	古市 茂	
3	中	19	長岡市	川口中学校	古成 恭子	
3	小	23	上越市	有田小学校	黒田 隆夫	
3	小	34	糸魚川市	西海小学校	小坂 良範	グループ司会
3	中	45	田上町	田上中学校	今井 奈奈	
3	小	56	燕市	分水小学校	小林 英樹	グループ記録
3	小	67	新潟市	白根小学校	高橋 健	
3	小	78	村上市	金屋小学校	前田 哲	
4	小	13	長岡市	石坂小学校	南雲 民人	
4	小	24	上越市	春日新田小学校	富樫 徹	
4	小	35	糸魚川市	糸魚川東小学校	角鹿 康武	※欠席
4	小	46	十日町市	川治小学校	鎌田 和則	グループ司会
4	小	57	弥彦村	弥彦小学校	山口 真人	
4	小	68	新潟市	臼井小学校	岩名 玲子	グループ記録
4	小	79	村上市	平林小学校	星 康司	
5	小	14	長岡市	岡南小学校	坂井 一	
5	小	25	上越市	国府小学校	樋口 英樹	
5	小	36	糸魚川市	糸魚川小学校	松葉 大吾	
5	中	48	十日町市	南中学校	影山 裕一	
5	中	58	燕市	小池中学校	佐藤 亜記	グループ司会
5	小	69	新潟市	大鷲小学校	牛嶋 昌克	
5	中	80	村上市	山北中学校	夏井 徳治	グループ記録・発表
6	小	15	長岡市	太田小学校	涌井千賀子	グループ記録
6	小	26	上越市	谷浜小学校	森田 正彦	
6	小	37	糸魚川市	大野小学校	荒川 紀子	
6	小	47	十日町市	松之山小学校	市川 哲	
6	小	59	新潟市	亀田小学校	榎根 浩	
6	小	70	新潟市	根岸小学校	高井 進一	グループ司会
6	小	81	五泉市	五泉東小学校	小澤 邦夫	
7	中	21	長岡市	北中学校	桑原 正博	
7	小	27	上越市	高田西小学校	布施 幸治	グループ記録
7	小	38	妙高市	新井北小学校	寺島 克郎	
7	小	49	見附市	今町小学校	夏井 了照	
7	小	60	新潟市	早通小学校	佐藤 晶子	
7	中	76	新潟市	内野中学校	森 正樹	
7	小	82	阿賀野市	堀越小学校	平井 涼	グループ司会
8	中	28	上越市	吉川中学校	八木 清美	グループ司会
8	小	39	三条市	須頃小学校	島 孝明	
8	中	50	見附市	西中学校	澤田 義則	グループ記録
8	小	61	新潟市	亀田東小学校	八木信之資	
8	小	72	新潟市	味方小学校	三浦 直之	
8	小	83	佐渡市	金井小学校	大蔵 武彦	
8	小	16	長岡市	神田小学校	種岡真由美	
9	中	18	長岡市	太田中学校	峰村 出穂	
9	小	29	柏崎市	比角小学校	山之内朋子	グループ司会
9	小	40	三条市	栄北小学校	石川 長生	
9	中	52	魚沼市	堀之内中学校	荒木 充	グループ記録・発表
9	小	62	新潟市	亀田西小学校	青野 敬樹	
9	小	73	新潟市	月潟小学校	植村 健太郎	
9	小	84	佐渡市	松ヶ崎小学校	小野 歩	
10	小	17	長岡市	桂小学校	徳富 大吾	
10	小	30	柏崎市	剣野小学校	栗田 明典	
10	小	41	三条市	大面小学校	尾身 聡志	グループ司会
10	小	51	魚沼市	小出小学校	関 裕太郎	
10	小	63	新潟市	新飯田小学校	野村 直樹	グループ記録
10	中	74	新潟市	葛塚中学校	田村 友教	
10	中	85	佐渡市	畑野中学校	村田 章知	
11	中	20	長岡市	山古志中学校	金城 良一	
11	小	31	柏崎市	中通小学校	歌代 温子	
11	小	42	三条市	笹岡小学校	亀倉 伸嘉	
11	小	53	南魚沼市	石打小学校	小山 雄一郎	グループ司会
11	小	64	新潟市	茨曾根小学校	廣川 純平	
11	中	75	新潟市	寄居中学校	渡部 陽平	グループ記録

分科会 4A

1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	小	1	新発田市	二葉小学校	中島美千子	分科会運営（進行）
	小	2	新発田市	東豊小学校	金子 康太郎	数教研会研究部長（フリー）
	小	3	新発田市	猿橋小学校	笠原 良樹	会場設置（機器操作）
	小	4	聖籠町	山倉小学校	小野 俊巳	設営・庶務副部長
	小	5	胎内市	築地小学校	宮川 和久	会場設置（機器操作）
	小	6	見附市	見附小学校	川上 節夫	提言者
	小	7	見附市	葛巻小学校	金子 剛志	支援者
	小	8	見附市	田井小学校	外山 高宏	司会者
	小	9	見附市	新潟小学校	尻玉 秀児	記録者
1	小	10	上越市	浦川原小学校	渡辺 奈穂子	グループ司会
1	小	22	妙高市	新井中央小学校	中川 知己	
1	小	34	三条市	上林小学校	蛇谷 直樹	グループ記録・発表
1	小	46	南魚沼市	上田小学校	関 泰	
1	小	58	新潟市	金津小学校	藤本 拓矢	
1	小	70	新潟市	笠木小学校	尾形 美穂	
1	小	82	阿賀野市	水原小学校	鈴木 智博	
2	小	11	上越市	大島小学校	炭谷 希基	
2	小	23	妙高市	妙高高原小学校	小林 保浩	グループ司会
2	小	35	三条市	月岡小学校	金子 純一	
2	小	47	南魚沼市	栃窪小学校	大重 涼平	グループ記録
2	小	59	新潟市	阿賀小学校	江口 健	
2	小	71	新潟市	青山小学校	和田 功	
2	小	83	阿賀野市	安野小学校	大山 聡子	
3	小	12	上越市	牧小学校	関谷 俊彦	
3	小	24	長岡市	新町小学校	渡邊 俊之	
3	小	36	小千谷市	東山小学校	富樫 亜紀	グループ司会
3	小	48	燕市	分水北小学校	久保田 理美子	
3	小	60	新潟市	新関小学校	安藤 達郎	グループ記録
3	小	72	新潟市	真砂小学校	坂井 克成	
3	小	84	阿賀野市	京ヶ瀬小学校	五十嵐 俊一	
4	小	13	上越市	柿崎小学校	金子 謙太郎	
4	小	25	長岡市	四郎丸小学校	涌井 基之	
4	小	37	小千谷市	南小学校	小林 貴範	
4	小	49	燕市	島上小学校	川井田 恵子	グループ司会
4	小	61	新潟市	小須戸小学校	牛嶋 育子	
4	小	73	新潟市	坂井輪小学校	三上 賢二	グループ記録
4	小	85	佐渡市	高千小学校	大関 一教	
5	小	14	上越市	上下浜小学校	若井 辰馬	
5	小	26	長岡市	浦瀬小学校	櫻井 太実	
5	小	38	加茂市	加茂小学校	佐藤 禎英知	
5	小	50	燕市	燕北小学校	井川 江司	
5	小	62	新潟市	矢代田小学校	梅津 祐介	グループ司会
5	小	74	村上市	神納小学校	佐藤 香織	
5	小	86	佐渡市	加茂小学校	塙 文昌	グループ記録
6	小	15	上越市	下黒川小学校	大坪 豊	※欠席
6	小	27	長岡市	深沢小学校	恩田 知弥	グループ記録・発表
6	小	39	田上町	羽生田小学校	富沢 一紀	
6	小	51	新潟市	新津第一小学校	長谷川 靖	
6	小	63	新潟市	小針小学校	高橋 正志	
6	小	75	村上市	小川小学校	中山 小百合	グループ司会
6	小	87	佐渡市	河原田小学校	瀬下 真心	
7	小	16	上越市	大潟町小学校	坂森 弘明	グループ司会
7	小	28	長岡市	上川西小学校	下田憲太郎	
7	小	40	十日町市	吉田小学校	小見 芳太郎	グループ記録
7	小	52	新潟市	新津第二小学校	清野 真輝	
7	小	64	新潟市	新通小学校	清野 佳子	
7	小	76	村上市	朝日みどり小学校	小柳 正樹	
8	小	17	上越市	南川小学校	寺島 元子	
8	小	29	長岡市	青葉台小学校	相澤 勇弥	グループ司会
8	小	41	十日町市	鏡島小学校	西原 正晃	
8	小	53	新潟市	新津第三小学校	佐々木和香子	グループ記録
8	小	65	新潟市	内野小学校	笹崎 義隆	
8	小	77	村上市	朝日さくら小学校	小野 理恵	
9	小	18	柏崎市	米山小学校	岡 一恵	
9	小	30	長岡市	大島小学校	長井 茂	
9	小	42	十日町市	橋小学校	沖山 直	グループ司会
9	小	54	新潟市	結小学校	酒井慎一郎	
9	小	66	新潟市	内野小学校	浅倉 健輔	グループ記録
9	小	78	五泉市	川東小学校	加藤 雄志	
10	小	19	柏崎市	二田小学校	品田 幹夫	
10	小	31	長岡市	越路西小学校	多田 修司	
10	小	43	十日町市	上野小学校	菊地 康裕	
10	小	55	新潟市	荻川小学校	菅原 知昭	グループ司会
10	小	67	新潟市	木山小学校	高橋 健一	
10	小	79	五泉市	栗本小学校	渡部 武志	グループ記録
11	小	20	柏崎市	北鱈石小学校	眞貝 典子	グループ記録・発表
11	小	32	長岡市	大河津小学校	平出久美子	
11	小	44	魚沼市	伊米ヶ崎小学校	伊林 ひより	
11	小	56	新潟市	小合東小学校	西塚 智行	
11	小	68	新潟市	赤塚小学校	和田 藍子	グループ司会
11	小	80	五泉市	橋田小学校	佐藤 将臣	
12	小	21	糸魚川市	根知小学校	加藤 剛	
12	小	33	三条市	裏館小学校	籠宅 巧	グループ記録
12	小	45	南魚沼市	数神小学校	上村 進一	
12	小	57	新潟市	小合小学校	田中由美恵	
12	小	69	新潟市	小瀬小学校	伊藤 一城	
12	小	81	五泉市	大蒲原小学校	湯浅 要	グループ司会

分科会 5A
1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	小	1	新発田市	東小學校	渡邊 正樹	分科会運営（進行）
	小	2	新発田市	住吉小學校	小栗 玲	会場設置（機器操作）
	小	3	新発田市	加治川小學校	高澤 元	会場設置（機器操作）
	小	4	聖籠町	蓮野小學校	本保 真由美	副実行委員長
	小	5	胎内市	黒川小學校	高橋 美紀	分科会運営（進行）
	小	6	南魚沼市	おおまき小學校	五十嵐 啓滋	提言者
	小	7	南魚沼市	城内小學校	桑原 洋文	支援者
	小	8	南魚沼市	北辰小學校	小野塚 真郎	司会者
	中	9	南魚沼市	八海中学校	神崎 悟	記録者
1	小	10	南魚沼市	浦佐小學校	笠原 裕美子	グループ司会
1	小	22	上越市	宝田小學校	岩島 亜紀子	
1	小	34	長岡市	宮本小學校	反町 悟	グループ記録・発表
1	小	46	十日町市	千手小學校	倉石 智幸	
1	小	58	新潟市	東青山小學校	塚本 剛	
1	小	70	新潟市	中之口東小學校	井筒 正之	
1	小	82	阿賀町	津川小學校	菊池 直和	
2	小	11	南魚沼市	赤石小學校	大淵 利枝子	
2	小	23	柏崎市	北条小學校	田中 文健	グループ司会
2	小	35	長岡市	中之島中央小學校	富澤 智宏	
2	小	47	十日町市	松代小學校	宮園 健吾	グループ記録
2	小	59	新潟市	大野小學校	山下 信孝	
2	小	71	新潟市	中之口西小學校	渡部香世子	
2	小	83	阿賀町	上川小學校	淵田 徹	
3	小	12	南魚沼市	六日町小學校	富士野 幸子	
3	小	24	柏崎市	鮎波小學校	吉井 千秋	
3	小	36	長岡市	日吉小學校	阿部 琢郎	グループ司会
3	小	48	見附市	上北谷小學校	岡島 祐次	
3	小	60	新潟市	黒崎南小學校	宮本 俊	グループ記録
3	小	72	新潟市	越前小學校	大滝 徳久	
3	小	84	阿賀町	三川小學校	杉山 順二	
4	小	13	南魚沼市	五十沢小學校	金子 綾	
4	小	25	柏崎市	内郷小學校	佐藤 裕貴	
4	小	37	長岡市	栃尾南小學校	津端 朝宏	
4	小	49	魚沼市	広神西小學校	板垣 幸男	グループ司会
4	小	61	新潟市	山田小學校	野澤 諭史	
4	小	73	新潟市	松野尾小學校	小林 亨	グループ記録
4	小	85	阿賀野市	神山小學校	岡本 世史治	
5	小	14	上越市	大濃小學校	井浦 敦史	
5	小	26	刈羽村	刈羽小學校	井口 笑子	
5	小	38	長岡市	小国小學校	高橋久美子	
5	小	50	魚沼市	宇賀地小學校	小宮山 めぐみ	
5	小	62	新潟市	立仏小學校	寺田 敬史	グループ司会
5	小	74	新潟市	巻南小學校	田代 豪	
5	小	86	佐渡市	真野小學校	堀田 直也	グループ記録・発表
6	小	15	上越市	明治小學校	竹田 道則	グループ記録
6	小	27	糸魚川市	田沢小學校	山口 俊充	
6	小	39	三条市	一ノ木戸小學校	小松 健二	
6	小	51	燕市	吉田南小學校	松井 陽一	
6	小	63	新潟市	新通つばさ小學校	林 俊行	
6	小	75	新潟市	漆山小學校	三浦 智恵子	グループ司会
6	小	87	佐渡市	新穂小學校	椎井 慎太郎	
7	小	16	上越市	吉川小學校	横山 毅彦	
7	小	28	糸魚川市	青海小學校	橋本 和士	グループ記録
7	小	40	三条市	嵐南小學校	小林 要	
7	小	52	燕市	吉田小學校	佐藤 亮一	
7	小	64	新潟市	岩室小學校	山口 洋一	
7	小	76	新潟市	巻北小學校	佐藤 史人	
7	小	88	佐渡市	畑野小學校	森島 哲仁	グループ司会
8	小	17	上越市	中郷小學校	小林 克樹	グループ司会
8	小	29	妙高市	妙高小學校	松本 高志	
8	小	41	三条市	大島小學校	笠原 知明	グループ記録
8	小	53	燕市	吉田北小學校	燕 敬也	
8	小	65	新潟市	和納小學校	杉山 克也	
8	小	77	村上市	さんぽく小學校	伊藤 孝希	
8	小	89	佐渡市	岡津小學校	山本 博文	
9	小	18	上越市	板倉小學校	橋爪 智哲	
9	小	30	長岡市	中島小學校	宮下 祐治	グループ司会
9	小	42	三条市	大浦小學校	佐藤 貴紀	
9	小	54	新潟市	五十嵐小學校	鈴木 暁子	グループ記録
9	小	66	新潟市	曾根小學校	三宮 真澄	
9	小	78	関川村	関川小學校	石田 博史	
10	小	19	上越市	豊原小學校	長谷川 孝史	
10	小	31	長岡市	川崎小學校	堀 和宏	
10	小	43	小千谷市	吉谷小學校	瀧澤 恵介	グループ司会
10	小	55	新潟市	五十嵐小學校	若月 利春	
10	小	67	新潟市	鏑郷小學校	室橋 辰宏	グループ記録
10	小	79	粟島浦村	粟島浦小學校	星 邦央	
11	小	20	上越市	清里小學校	新井 慎一	
11	小	32	長岡市	柿小學校	中川 智子	
11	小	44	田上町	田上小學校	杉山 一郎	
11	小	56	新潟市	坂井東小學校	阿部 敬也	グループ司会
11	小	68	新潟市	升湯小學校	高橋 広樹	
11	小	80	五泉市	村松小學校	浅間 一城	グループ記録・発表
12	小	21	上越市	三和小學校	横尾 裕美	グループ記録
12	小	33	長岡市	日越小學校	高野 貴也	
12	小	45	十日町市	東小學校	齋藤 雅文	
12	小	57	新潟市	西内野小學校	大門 克寿	
12	小	69	新潟市	湯東小學校	若槻 満	グループ司会
12	小	81	五泉市	愛宕小學校	波田野 伸樹	

分科会 5B

1～9、7人グループ 10～12、6人グループ

小グループ	校種	No.	市町村	学 校 名	氏 名	備 考
			〇〇市	〇〇学校	〇〇 〇〇	
	中	1	新発田市	本丸中学校	菊地 清勝	設営・庶務部長
	中	2	新発田市	川東中学校	八木 克洋	分科会運営（進行）
	中	3	新発田市	紫雲寺中学校	青山 亮	会場設営（機器操作）
	中	4	胎内市	乙中学校	畑山 倫和	分科会運営（進行）
	中	5	新潟市	宮浦中学校	石原 直樹	提言者
	中	6	新潟市	坂井輪中学校	山田 繁	支援者
	中	7	新潟市	内野中学校希望丘分校	柳 大輔	司会者
	中	8	新潟市	西川中学校	畠山 淳	記録者
1	中	9	新潟市	石山中学校	上野 一志	グループ司会
1	中	18	新潟市	高志中等教育学校	山田 篤	
1	中	27	上越市	清里中学校	池村 和重	グループ記録
1	中	36	糸魚川市	糸魚川中学校	江川 義法	
1	中	45	三条市	第一中学校	長 滋徳	
1	中	54	見附市	今町中学校	風間真寿美	
1	中	63	阿賀野市	京ヶ瀬中学校	佐久間朋子	
2	中	10	新潟市	関屋中学校	塚野 貴弘	
2	中	19	新潟市	南浜中学校	田中 俊彦	グループ司会
2	中	28	上越市	三和中学校	小山 宏一	
2	中	37	糸魚川市	青海中学校	曾根原 至	グループ記録・発表
2	中	46	三条市	下田中学校	中村 正之	
2	中	55	魚沼市	小出中学校	廣瀬 貴久	
2	中	64	佐渡市	金井中学校	高橋 亮介	
3	中	11	新潟市	横越中学校	倉田 隆	
3	中	20	新潟市	柳都中学校	本図 直美	
3	中	29	上越市	名立中学校	山田 圭祐	グループ司会
3	中	38	妙高市	妙高中学校	関原 和人	
3	中	47	小千谷市	小千谷中学校	佐藤 太	グループ記録
3	中	56	弥彦村	弥彦中学校	橋本 勉	
3	中	65	佐渡市	高千中学校	木村 與志	
4	中	12	新潟市	新津第一中学校	渡部 睦	
4	中	21	新潟市	巻東中学校	植田 真令	
4	中	30	上越市	直江津中等教育学校	金子 顕	
4	中	39	長岡市	栖吉中学校	鈴木 勇	グループ司会
4	中	48	加茂市	加茂中学校	仲村 健一	
4	中	57	燕市	燕北中学校	木原 貴徳	グループ記録・発表
4	中	66	佐渡市	前浜中学校	長部 博光	
5	中	13	新潟市	白南中学校	中山 智司	
5	中	22	新潟市	山潟中学校	横山 学	
5	中	31	柏崎市	南中学校	岩舩 尚貴	
5	中	40	長岡市	堤岡中学校	阿部 光宏	
5	中	49	加茂市	葵中学校	鈴木 克佳	グループ司会
5	中	58	燕市	燕中等教育学校	比護 一幸	
5	中	67	佐渡市	佐和田中学校	金子 幸弘	グループ記録
6	中	14	新潟市	白根第一中学校	佐藤 竜二	グループ記録
6	中	23	新潟市	亀田中学校	本間 満	
6	中	32	柏崎市	第二中学校	吉原 裕介	
6	中	41	長岡市	大島中学校	星野 和子	
6	中	50	十日町市	吉田中学校	山本 昌子	
6	中	59	関川村	関川中学校	金子 浩	グループ司会
6	中	68	佐渡市	佐渡中等教育学校	椿 昌宏	
7	中	15	新潟市	臼井中学校	加納 貴	グループ記録
7	中	24	新潟市	黒崎中学校	小池 政博	
7	中	33	柏崎市	東中学校	坂西 大輔	
7	中	42	長岡市	中学校之島中学校	前田 尊昭	
7	中	51	十日町市	川西中学校	元井 啓介	
7	中	60	粟島浦村	粟島浦中学校	野原 勇紀	グループ司会
7	中	69	南魚沼市	大和中学校	小林 一治	
8	中	16	新潟市	赤塚中学校	佐久間 奈々子	グループ司会
8	中	25	上越市	中郷中学校	長田 敏行	
8	中	34	柏崎市	鏡が沖中学校	毛見 哲也	グループ記録
8	中	43	長岡市	寺泊中学校	片野 量	
8	中	52	十日町市	松之山中学校	柳 敦子	
8	中	61	村上市	県立村上中等教育学校	丹羽 徹	
9	中	17	新潟市	小新中学校	松村 光敏	
9	中	26	上越市	板倉中学校	渡辺 正一	グループ司会
9	中	35	刈羽村	刈羽中学校	八木 純	
9	中	44	長岡市	与板中学校	早川 華世	グループ記録・発表
9	中	53	津南町	県立津南中等教育学校	田中 紀之	
9	中	62	阿賀町	三川中学校	宮田 雄介	

令和7年度 第61回新潟県小中学校教頭会研究大会

新発田北蒲・胎内教頭数

	新発田北蒲	胎内	合計
小学校	17	5	22
中学校	11	4	15
合計	28	9	37

実行委員長		
片野 一輝(3)	御免町小	

副実行委員長 4		
大石 康範(2A)	猿橋小	新発田市小学校教頭会長
清野 正康(2B)	豊浦中	新発田市中学校教頭会長
網代 鋼一(1A)	中条小	胎内市小中学校教頭会長
本保 真由美(5A)	蓮野小	聖籠町小中学校教頭会長

運営委員会 11		
実行委員長(1)、副実行委員長(4) 事務部長(1)、事務副部長(1) 研修部長(1)、研修副部長(1) 設営部長(1)、設営副部長(1)		

県教頭会研究部長(4A)
金子 康太郎(東豊小)

事務部 2		
部長(1B)	山田 絵美子	七葉中
副部長(1A)	水澤 公彰	佐々木小

研修部 2		
部長(2A)	中村 克行	七葉小
副部長(2B)	小出 祐一	佐々木中

設営・庶務部 2		
部長(5B)	菊地 清勝	本丸中
副部長(4A)	小野 俊巳	山倉小

会計・文書処理係 2		
◎(3)	関 慎太郎	豊浦小
○(1B)	廣澤 正文	加治川中

分科会運営係(進行) 12		
1(1A)	佐野 亮太	外ヶ輪小
2(4A)	中島 美千子	二葉小
3(5A)	渡邊 正樹	東小
4(1B)	渡邊 正則	第一中
5(3)	高山 雄一	猿橋中
6(2B)	長谷川 直紀	東中
7(5B)	八木 克洋	川東中
8(1B)	田中 健太	聖籠中
9(2A)	渡邊 芳哉	きのと小
10(5A)	高橋 美紀	黒川小
11(5B)	畑山 倫和	乙中
12(3)	倉町 宏治	築地中

会場設営係(機器操作) 11		
1(1A)	川崎 英樹	川東小
2(5A)	小栗 玲	住吉小
3(4A)	笠原 良樹	猿橋小
4(5A)	高澤 元	加治川小
5(2A)	五十嵐 敦志	紫雲寺小
6(5B)	青山 亮	紫雲寺中
7(2A)	中野 史子	亀代小
8(3)	嵐 直人	胎内小
9(4A)	宮川 和久	築地小
10(1B)	丸山 温	中条中
11(2B)	中野 貴広	黒川中

第 61 回新潟県小中学校教頭会研究大会 大 会 宣 言

急速に変化し、将来の予測が難しいこれからの社会を生きる子どもたちには、多様性を受容する思いやり、自ら考え判断し行動する力、他者と協働しながら新しいものを生み出していく創造性が求められています。そして、厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもち自立した人間として、未来を切り拓く力をもった子どもを育むことは重要です。

3 年振りの全県開催となる新発田・北蒲原・胎内大会では、第 13 期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」（キーワード 自立・協働・創造）のもと、「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（3 年次研究）をサブテーマに掲げ、直面する教育諸課題の解決を目指してきました。

また、「研究の継続性による成果と課題の焦点化」、「研究の協働性の充実」、「教頭の関与性の明確化」の 3 つを研究の柱として、全県をオンラインで結び、各実践の成果と課題を共有しながら、教頭としての資質・指導力の向上に努めてきました。

私たちは、教頭としての職責の重大さを改めて自覚し、やがて社会の創り手となる子どもたちが、自ら考えて行動し、他者と協働しながら課題を乗り越え、新たな価値を創造しながら未来を拓く力を育んでいくことができる魅力ある学校づくりに努めていかなければなりません。

ここに会員の総力を結集し、次の事項の実現に教頭として全力を尽くすことを、第 61 回新潟県小中学校教頭会研究大会の総意をもって宣言します。

決 議

- 1 信頼に応える学校づくりに資する教育課程の編成・実施・改善
- 2 主体的に学び、たくましく生き抜く児童生徒を育む学校づくり
- 3 魅力ある学校づくりを支える教育環境整備の推進
- 4 組織マネジメントを生かした学校運営の活性化
- 5 教職員の資質向上、職務意識の高揚を図る校内体制づくり

令和 7 年 11 月 5 日

第 61 回新潟県小中学校教頭会研究大会